

三十三
年八月
勅令第
三百三
十七號
看
三十五
年二月
勅令第
三百五
號
三十七
年三月
勅令第
三百八
號
看
三十八
年四月
勅令第
三百八
號
看

●勅令第四十一號 (明治三十一年三月十二日)

徵兵事務條例補則

- 第一條 徵兵事務條例中北海道及沖繩縣並東京府管下大島、八丈島小島、青ヶ島、鳥島ヲ包含ス以下同、小笠原島ニ實施シ難キ諸件ハ當分本則ニ依ル
- 第二條 北海道廳支廳ノ管轄區域及沖繩縣ノ區ハ各之ヲ徵募區ト爲ス
- 第三條及第四條削除
- 第五條 明治三十年勅令第二百五十八號ニ當ル者ハ其ノ移住ノ年月日及生業ノ狀況ヲ詳記シ毎年三月一日迄三月一日以後事故ノ生シタル者ハ其都度以下同シニ聯隊區徵兵官ニ願出ヘシ
- 明治二十八年勅令第二百二十六號第三條第一項ニ當ル者ハ其ノ移住ノ年月日及業務ノ現況ヲ詳記シ三月一日迄ニ聯隊區徵兵官ニ願出ツヘシ
- 本條ノ願書ニハ町村長ニ準スヘキ者ノ奧書證印ヲ受クヘキモノトス
- 第六條 壯丁若ハ其ノ家族ニ於テ明治二十八年勅令第二百二十六號第三條明治三十年勅令第二百五十八號ニ依ル警備隊區徵兵官又ハ聯隊區徵兵官ノ裁決ニ不服アルト

キハ徵兵事務條例第五章ノ規程ニ依リ訴願スルコトヲ得

第七條 削除

第八條 北海道及沖繩縣ニ在テハ師管徵兵官ノ認可ヲ得某徵募區ノ徵兵署ヲ他ノ徵募區内ニ設クルコトヲ得

第九條 沖繩警備隊區ノ壯丁ハ之ヲ近衛師團第六師團第十二師團及海軍諸兵ニ徵集

ス

沖繩警備隊區ニ於ケル現役兵及補充兵ノ要員ヲ其ノ區ノ壯丁ヲ以テ充スコト能ハサルトキハ其ノ不足員ハ第六師管及第十二師管若ハ其ノ一ヨリ補充ス

現役兵入營後ニ於ケル缺員ハ徵兵事務條例第四條第一項及第五項ノ區域内ニ在ル補充兵ヲ以テ之ヲ補充ス但シ近衛兵ト爲リタル者ノ缺員ハ第六師管ヨリ補充ス前項補充兵ノ配賦ハ補充兵ノ總數ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 第七師管ニ於ケル現役兵補充兵ノ配賦ハ壯丁ノ總員ヨリ明治二十八年勅令第二百二十六號第三條第一項ニ當ルヘキ豫定ノ人員ヲ除算シタルモノヲ以テ基準ト

ス

第十一條 沖繩警備隊區ヨリ徵集ノ現役兵入營ノトキハ地方吏員之ヲ引率シ入營地

又ハ近衛、海軍入營兵集合地ニ於テ當該隊長近衛入營兵受領員又ハ鎮守府兵事官ニ交付セシム

第十二條 徵兵事務條例中警備隊司令官ノ職務ハ沖繩警備隊區ニ在テハ警備隊區司令官市長市書記ノ職務ハ沖繩縣ニ在テハ區長區書記、郡市長郡市書記ノ職務ハ北海道ニ在テハ北海道廳支廳長同支廳ノ屬、町村長ノ職務ハ沖繩縣及大島、八丈島、小笠原島ニ在テハ町村長ニ準スヘキ者之ヲ行フ

警備隊區司令官、區長又ハ支廳長事故アルトキハ徵兵事務條例第十條ノ規定ヲ準用ス

第十三條 北海道廳紗那支廳管下及大島、八丈島、小笠原島ニ於ケル聯隊區徵兵官タル聯隊區司令官ノ職務ハ聯隊區副官若ハ他ノ將校ヲシテ臨時之ヲ行ハシムルコトヲ得

徵兵事務條例補則

ブ四終

北海道廳紗那支廳管下及小笠原島ニ於ケル徵兵事務執行ノ際ハ徵兵事務條例第十四條ノ軍醫ノ外仍軍醫一名ヲ以テ聯隊區徵兵醫官ト爲スコトヲ得

附則

第十四條 本則中警備隊區ニ係ル事項ハ明治三十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十五條 第五條第一項及第二項ノ願出期日ハ明治三十一年ニ限り四月二十日迄トス

本令ハ明治三十七年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

●陸軍省令第三十號 (明治三十三年十月十三日)

徵兵事務條例施行細則中北海道沖繩縣及東京府管下大島八丈島小笠原島ノ各徵募區ニ施行シ難キ諸件ハ當分左ノ諸條ニ依ル

第一條 明治二十八年勅令第二百二十六號第三條第一項ニ當ル者ハ徵兵事務條例施行細則第二條ニ依ラス壯丁名簿ヲ作ルヘシ

第二條 明治三十年勅令第二百五十八號ニ依リ徵集猶豫ニ屬スル者ハ身體檢査ヲ行ハス

第三條 明治二十八年勅令第二百二十六號第三條第一項及明治三十年勅令第二百五十八號ニ依リ徵集免除徵集猶豫ニ屬スル者ニハ徵兵事務條例施行細則第九條ノ例ニ依リ徵集猶豫證書ヲ付與シ又ハ徵集免除ノコトヲ達スヘシ

其ノ徵集免除又ハ徵集猶豫願ヲ許可セサル者ニハ徵兵事務條例施行細則第十條ノ例ニ依リ裁決書ヲ付與スヘシ

第四條 明治二十八年勅令第二百二十六號第三條第二項ノ資格ヲ失ヒタル者アルトキ

三十七年
二月省令
第八號參
看

ハ該隊長又ハ後備兵村監視ヨリ本籍地ノ市町村長ニ通知スヘシ但シ其ノ資格ヲ失ヒタル者ノ内屯田下士兵卒ノ戸籍内ニ在ルモ兵村ノ業務ニ従事セサル者ニ付テハ其ノ事由ヲ詳記スヘシ

第五條 前條ノ通知ヲ受ケタル市町村長ハ異動壯丁名簿ヲ作り之ニ通知書ヲ添附シ町村長ハ其ノ年ノ壯丁名簿ト共ニ島司郡長ニ差出シ島司郡市長ハ聯隊區徵兵署ニ提出スヘシ但シ町村長前條ノ通知ヲ受ケタルトキ壯丁名簿進達後抽籤前ニ在テハ直ニ抽籤後ニ在テハ翌年ノ壯丁名簿ト共ニ差出スヘシ

第六條 明治二十八年勅令第二百二十六號第二條及明治三十年勅令第二百五十八號ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ町村長ニ於テ其ノ處分ヲ受ケタル翌年ヨリ徵集猶豫期限滿ツル迄毎年其ノ生業ノ狀況ヲ調査シ徵兵署開設迄ニ聯隊區徵兵官ニ報告スヘシ

第七條 沖繩警備隊區ニ於テ要員ヲ充スコト能ハサルトキハ警備隊區司令官ヨリ第六師團長ニ第六師團長ヨリハ之ヲ陸軍大臣ニ具狀スヘシ

三十五年
二月省令
第八號參
看

第八條 徵兵事務條例補則第九條第三項ニ依リ補缺ヲ要スルトキハ該隊長又ハ鎮守府兵事官ヨリ之ヲ師團長ニ申請シ師團長ハ師管內該兵科第一補充兵ノ總員ヲ調査シ聯隊區ニ配賦シ聯隊區司令官ハ聯隊區內該兵科第一補充兵ノ總員ヲ調査シ之ヲ徵募區ニ配賦スヘシ但近衛兵ニ在リテハ近衛師團長ヨリ第六師團長ニ通知スヘシ

第九條 徵兵事務條例施行細則第二十五條ニ依ル第六師管徵兵表其一中沖繩警備隊區ヨリ第十二師團ニ徵集スル現役兵ノ人員ハ之ヲ朱書シ第六師團ニ徵集スル者ト區分スヘシ

第十條 削隊

第十一條 徵兵事務條例補則第十一條ノ引率吏員ハ現役兵交付ノ際徵兵事務條例第四十四條ノ入營延期願濟ノ者其ノ他事故不參ノ者ノ人名及事由ヲ各隊長近衛入營兵受領員若ハ鎮守府兵事官ニ通知シ又引率ノ際永久兵役ニ堪ヘ難キ者ト認ムル者アルトキハ其ノ診斷證書ヲ添ヘ警備隊區司令官ニ通報スヘシ

第十二條 徵兵事務條例施行細則中警備隊司令官ノ職務ハ沖繩警備隊區ニ在テハ警

備隊區司令官、郡長郡書記ノ職務ハ北海道ニ在テハ北海道廳支廳長同支廳ノ屬、市長市書記ノ職務ハ北海道及沖繩縣ニ在テハ區長區書記、町村長ノ職務ハ北海道沖繩縣及大島八丈島小笠原島ニ在テハ町村長ニ準スヘキ者之ヲ行フ

附則

明治三十一年陸軍省令第三號ハ之ヲ廢止ス
本令ハ明治三十七年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

●陸軍省令第二十六號 (明治三十年十月二十二日)

陸軍豫備役後備役ニ在ル者及補充兵ニシテ船員タル者届出ノ件左ノ通定ム

第一條 陸軍豫備役後備役ニ在ル者及補充兵ニシテ左ニ掲クル者ハ其ノ就職又ハ雇入アリタル日ヨリ十四日以内ニ管海官廳又ハ管海官廳ノ事務ヲ行フ市町村長戸長若ハ之ニ準スヘキ者 外國ニ在リテハ日本ノ領事又ハ貿易事務官ノ證明ヲ受ケ本籍島司郡市町村長ヲ經テ其ノ旨ヲ本籍縣隊區司令官又ハ警備隊區司令官 對馬ニ在リテハニ届出ヘシ其ノ退職シ又ハ雇止アリタルトキ亦同シ

第二條 陸軍後備役ニ在ル者及第二補充兵ニシテ登簿船免狀ヲ受有スル船舶ノ賄方、水夫、火夫ニ付テモ亦前條ニ依ル

第三條 正當ノ事由ナク第一條第二條ノ届出ヲ怠リタル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第四條 第一條ノ市町村長ハ東京市、京都市、大阪市及市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ區長、戸長及之ニ準スヘキ者トス

陸軍豫備役後備役ニ在ル者及補充兵ニシテ船員タル者届出ノ件 一

三十五年
九月省令
第二十七
號參看

陸軍豫備役後備役ニ在ル者及補充兵ニシテ船員タル者届出ノ件 ホニ終

第五條 本令施行以前ヨリ第一條及第二條ノ業ニ従事シ在ル者ハ明治三十年十一月二十日迄ニ第一條ノ例ニ依リ届出ヘシ但外國渡航中ノ者ハ歸朝後領事ノ證明ヲ受書受二十一日内ニ届出ヘシ
領後
前項ノ届出ヲ怠ル者ニハ第三條ヲ適用ス

三十六年
五月勅令
第九十二
號參看

●勅令第四百四十六號 (明治二十九年四月十六日)

海軍筆記任用令

第一條 海軍筆記ハ身體検査及學術試験ヲ行ヒ合格シタル者ニ及海軍筆記適任證書ヲ有スル現役卒ニ就キ鎮守府司令長官之ヲ任用ス其ノ初任ハ三等筆記トス
身體検査及學術試験ニ關スル規程ハ海軍大臣之ヲ定ム

第二條 左ニ掲クル諸項ノ一ニ該ル者ハ海軍筆記ニ任用スルコトヲ得ス

一 年齢二十年未滿及三十三年以上ノ者

二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

三 破産若クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權ヲ得サル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者

四 品行不良ノ者

第三條 豫備役ニ在ル海軍下士、豫備役後備役ニ在ル海軍卒ハ本令ニ依リ海軍筆記

海軍筆記任用令

三十一年
六月勅令
第五百二十
五號參看

海軍筆記任用例

六二終

ニ任用スルコトヲ得
前項ニ依リ任用セラレタル者ノ服役期限ニ關シテハ更ニ海軍下士卒服役條例ヲ適
用ス

●海軍省令第一號 (明治二十八年二月三日)

海軍軍人軍屬ノ旅行ニシテ左ノ各號ノ一ニ當ルトキハ明治二十八年勅令第二十二號

ニ依リ其ノ旅費ヲ前金渡スルコトヲ得

- 一 准士官以上、候補生及文官艦團其ノ他各部ニ赴任スルトキ
- 二 准士官以上待命、休職、停職ト爲リ滞在指定地ニ旅行シ又ハ東京ニ歸住スルト
キ並待命休職停職ノ准士官以上指定地滞在ヲ免セラレ東京ニ歸住シ又ハ滞在
指定地ヲ更定セラレ其ノ地ニ旅行スルトキ
- 三 下士卒及艦營傭人艦團其ノ他各部ノ勤務ヲ命免セラレ旅行スルトキ
- 四 生徒、學生、下士卒及艦營傭人入院若ハ陸地療養ヲ爲シ又ハ施療場所ヲ移轉ス
ルトキ並退院又ハ療養ヲ終へ復歸スルトキ
- 五 下士卒被告事件不起訴、免訴若ハ無罪ニ歸シ又ハ假出獄、刑期滿限ニ依リ復歸
スルトキ

海軍軍人軍屬ノ旅行者ニ旅費前渡ノ件

八一

- 六 准士官以上豫備役、後備役、退役ト爲リ、生徒退校ヲ命セラレ、下士卒豫備役、後備役、免官、免役ト爲リ若ハ歸休ヲ命セラレ歸郷スルトキ
- 七 生徒入校又ハ志願兵入團ノ際其ノ採用ヲ取消サレ歸郷スルトキ
- 八 豫備役後備役ノ軍人及歸休兵召集セラレ召集地ニ旅行シ又ハ召集ヲ解カレ歸郷スルトキ
- 九 臺灣在勤ノ准士官以上廢官ト爲リ、候補生ニシテ候補生ヲ免セラレ、文官休職、免官、廢官ト爲リ、雇員傭人解雇解備ト爲リ内地ニ復歸スルトキ並艦船乗組艦營傭人解備ト爲リ傭入地ニ復歸スルトキ
- 十 准士官以上、候補生及軍屬臺灣在勤中又ハ豫備役後備役ノ准士官以上、候補生召集中死亡シ内地又ハ應召地迄旅費ヲ支給スルトキ

附則

本令ハ明治三十八年二月十五日ヨリ之ヲ施行ス

●法律第四百四號 (明治三十二年七月十四日)

軍機保護法

- 第一條 軍机上祕密ノ事項又ハ圖書物件タルコトヲ知テ之ヲ探知收集シタル者ハ重懲役ニ處シ其ノ情輕キ者ハ一等ヲ減ス
- 第二條 職務ニ因リ軍机上祕密ノ事項又ハ圖書物件ヲ知得領有シタル者其ノ祕密タルコトヲ知テ之ヲ他人ニ漏洩交付シ若ハ之ヲ公示シタルトキハ有期徒刑ニ處ス
- 第三條 偶然ノ原由ニ因リ軍机上祕密ノ事項又ハ圖書物件ヲ知得領有シタル者其ノ祕密タルコトヲ知テ之ヲ他人ニ傳説交付シ若ハ之ヲ公示シタルトキハ輕懲役ニ處ス
- 第四條 許可ヲ得スシテ軍港要港防禦港又ハ堡壘砲臺水雷衛所其ノ他國防ノ爲建設シタル諸般ノ防禦營造物ヲ測量摸寫撮影シ又ハ其ノ狀況ヲ錄取シタル者ハ一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 因テ第一條ノ罪ヲ犯シタル者ハ重キニ從テ處斷ス
- 第五條 許可ヲ得ス又ハ詐僞ノ所爲ニ因リ許可ヲ得テ堡壘砲臺水雷衛所其ノ他國防

ノ爲建設シタル諸般ノ防禦營造物内ニ入りタル者亦前條ノ例ニ同シ

第六條 本法ニ規定シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第二條ノ罪ヲ犯サントシテ其ノ豫備ヲ爲シタル者ハ同條ノ刑ニ照シ二等又ハ三等ヲ減ス

第七條 本法ノ罪ヲ犯シ因テ財物ヲ得タル者ハ其ノ財物ヲ沒收シ既ニ費消シタルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第八條 本法ハ刑法第二編第二章第二節外患ニ關スル罪陸軍刑法第二編第一章反亂ノ罪海軍刑法第二編第一章反亂ノ罪ニ關スル規定ノ效力ヲ妨ケス

●勅令第一號 (明治三十四年一月二十二日)

防務條例

第一條 本條例ハ永久ノ目的ヲ以テ海岸ニ建設シタル防禦地點ノ防禦ニ關シ陸海軍協同作戰ノ分擔任務及其計畫指揮ヲ規定ス

第二條 海岸防禦地點ノ防禦ハ陸海軍協同シテ之ニ任スルモノトス而シテ陸海兩軍ノ性質ニ因リ分擔スヘキモノ概テ左ノ如シ

甲 陸軍ノ擔任

其一 陸地警戒勤務

其二 陸地防禦工事

其三 諸砲臺ノ勤務

其四 砲壘通信勤務

乙 海軍ノ擔任

其一 海上警戒勤務

其二 海中防禦及之ニ屬スル諸勤務

其三 船艦ヲ以テスル諸勤務

其四 海上通信勤務

第三條 平時陸海軍相連繫スル防禦計畫ノ要領ハ參謀總長海軍軍令部長ト協商シ裁定ノ後陸軍大臣及海軍大臣ニ移ス陸軍大臣若クハ海軍大臣ハ之ヲ當該長官ニ令達スルモノトス

第四條 東京灣、廣島灣、佐世保、舞鶴ノ防禦ニ在テハ鎮守府司令長官及要塞司令官、由良、藝豫、下關、長崎、函館、對馬、基隆、澎湖島ノ防禦ニ在テハ要塞司令官、要港部司令官、對馬警備隊司令官及海軍防禦部ノ長第二條ノ規定ニ依リ各其擔任ノ事項ヲ計畫ス

第五條 鎮守府司令長官、要塞司令官、要港部司令官、對馬警備隊司令官及海軍防禦部ノ長ハ其協同作戰上相連繫スル事項ニ關シテハ互ニ諮議協商スヘシ

第六條 第四條ノ各防禦地ニ在テハ陸海軍司令官ノ下ニ互ニ連繫司令部ノ將校ヲ兼

三十六年
六月勅令
第六號
參看

務セシム

第七條 凡テ策定セシ防禦計畫ハ毎年三月左ノ如ク報告移牒スヘシ

一 要塞司令官及對馬警備隊司令官ハ二通ヲ調製シ所管師團長ヲ經由シ參謀總長

ニ報告シ參謀總長ハ其一通ヲ海軍軍令部長ニ移ス

二 鎮守府司令長官、要港部司令官及海軍防禦部ノ長ハ二通ヲ調製シ海軍軍令部

長ニ報告シ海軍軍令部長ハ其一通ヲ參謀總長ニ移ス但海軍防禦部ノ長ヨリ出ス報告ハ所管鎮守府司令長官ヲ經由スヘシ

三 基隆及澎湖島ノ防禦計畫ハ臺灣總督ヲ經由シ參謀總長若クハ海軍軍令部長ニ報告スルモノトス參謀總長及海軍軍令部長ノ互ニ其一通ヲ移スコトハ前二項ニ同シ

第八條 第四條各防禦地點ノ戰時ノ指揮官ハ毎年三月陸軍大臣海軍大臣ト協議シ親裁ヲ經テ之ヲ定ム但シ陸軍大臣ハ參謀總長海軍大臣ハ海軍軍令部長ニ協議スルモノトス

四月一日ヨリ翌年三月盡日迄ノ間ニ指揮官ニ變更ヲ要スルトキハ同手續ニ依リ更ニ之ヲ定ム

第九條 戰時指揮官ノ幕僚ハ陸海兩軍ノ將校ヲ以テ編成ス其任命ハ臨時ニ指揮官ノ選定ト同キ手續ヲ經テ之ヲ行フモノトス但シ鎮守府司令長官、要塞司令官、要港部司令官、對馬警備隊司令官ヲ以テ前條ノ指揮官ヲ兼掌セシムルトキハ別ニ幕僚ヲ編成セス指揮官タル各官ノ幕僚ニ所要ノ人員ヲ增加ス

附則

第十條 舞鶴軍港ニ鎮守府ヲ澎湖島ニ要港部ヲ置カサル間ハ同港防禦上海軍ノ擔任ニ係ル事項ハ海軍首席將校之ヲ司リ基隆及澎湖島ニ要塞司令部ヲ置カサル間ハ同港防禦上陸軍ノ擔任ニ係ル事項ハ要塞砲兵隊長之ヲ司リ其防禦計畫ノ報告移牒ハ第七條ニ準シ之ヲ行フモノトス

●法律第五百五號 (明治三十二年七月十四日)
要塞地帶法

第一章 總則

第一條 要塞地帶トハ國防ノ爲建設シタル諸般ノ防禦營造物ノ周圍ノ區域ヲ云フ
第二條 要塞地帶ノ幅員ハ防禦營造物ノ各突出部ヲ連結スル線ヲ基線トシ此ノ線ヨリ外方一定ノ距離以內ニ於テ之ヲ定ム
第三條 要塞地帶ハ陸地ト海面トヲ問ハス之ヲ三區ニ分チ各區ノ幅員ハ左ノ區別ニ從ヒ陸軍大臣之ヲ定メ竝之ヲ告示ス其ノ之ヲ變更スル場合亦同シ但シ陸軍防禦營造物ノ地帶及第七條第二項ノ區域カ海軍防禦營造物ノ地帶及第七條第二項ノ區域ト相關聯スルカ或ハ軍港要港又ハ海軍用地ニ係ル場合竝陸軍用地カ海軍防禦營造物ノ地帶及第七條第二項ノ區域ト相關聯スル場合ニ於テハ陸軍大臣海軍大臣協議ノ上之ヲ定メ連署シテ告示ヲ爲スコトヲ要ス

第一區 基線ヨリ測リ二百五十間以內及基線ト防禦營造物間ノ區域

第二區 基線ヨリ測リ七百五十間以内

第三區 基線ヨリ測リ二千二百五十間以内

第四條 要塞司令官鎮守府司令長官要港部司令官及築城部本部長ハ要塞地帯ヲ劃スル爲其ノ他必要ト認ムル場合ニ於テハ部下官僚ヲシテ要塞地帯内及第七條第二項ノ區域内何レノ地ヲ問ハス出入セシムルコトヲ得但シ陸海軍用地内ニ出入セシメントスルトキハ互ニ當該官廳ノ承認ヲ經ヘシ

第五條 陸軍防禦營造物ノ地帯及第七條第二項ノ區域ニ關聯セサル海軍防禦營造物ノ地帯及第七條第二項ノ區域内ニ關シテハ此ノ法律ニ規定スル陸軍大臣ノ職務ハ海軍大臣之ヲ行ヒ要塞司令官ノ職務ハ鎮守府司令長官要港部司令官之ヲ行フ

第六條 此ノ法律ハ防禦營造物ノ設ナシト雖之ヲ設クルコトニ決定シタル箇所ニ於テ其ノ豫定防禦營造物ノ各突出部ヲ連結スル線ヲ基線トシ第二條第三條及第七條第二項ニ定メタル區域ニ付テ亦之ヲ適用ス但シ基線以内ノ區域ハ第一區ニ準ス

第二章 禁止及制限

第七條 何人ト雖要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ要塞地帯内水陸ノ形狀ヲ測量、撮影、摸寫、錄取スルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ要塞地帯外ト雖第三區ノ境界線ヨリ外方三千五百間以内ノ區域ニ於テ之ヲ適用ス

第八條 要塞司令官ハ要塞地帯内ニ入り兵備ノ狀況其ノ他地形等ヲ視察スル者ト認メタルトキハ之ヲ要塞地帯外ニ退去セシムルコトヲ得

第九條 要塞地帯ノ第一區ニ屬スル水面ニ在リテハ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ漁獵、採藻及艦船ノ繫泊、土砂ノ掘鑿ヲ爲スコトヲ得ス

第十條 第一區内ニ於テ新設スルコトヲ得サルモノ左ノ如シ

- 一 不燃質物ヲ以テ築造セル家屋及倉庫
- 二 窰室及固定竈爐
- 三 不燃質物ヲ以テ築造セル高サ二尺ヲ超ユル諸般ノ築造物

第十一條 第一區内ニ於テ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ新設スルコトヲ得サ

ルモノ左ノ如シ

一 埋葬地

二 水車及風車

三 井

四 容易ニ他ニ移動スヘカラサル器械器具ヲ備フル家屋

五 生垣及木造ノ圍牆

六 第十條第一號ニ於テ禁セサル家屋及倉庫

第十二條 第二區ニ於テ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ新設スルコトヲ得サルモノ左ノ如シ

一 不燃質物ヲ以テ築造セル家屋及倉庫

二 埋葬地

三 不燃質物ヲ以テ築造セル高サ三尺ヲ超ユル諸般ノ築造物

第十三條 第一區第二區内ニ於テ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ屋内ト屋外ト

ヲ問ハス累積スルコトヲ得サルモノ左ノ如シ

一 第一區内ニ於テハ高サ五尺、第二區内ニ於テハ高サ八尺以上ニ累積スル不燃質物及石炭類

二 第一區内ニ於テハ高サ一丈三尺、第二區内ニ於テハ高サ一丈七尺以上ニ累積スル薪炭及竹木材

第十四條 第一區第二區内ニ於テハ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ家屋倉庫及諸般ノ築造物ヲ改築増築スルコトヲ得ス

第十五條 各區内ニ於テ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ新設若ハ變更スルコトヲ得サルモノ左ノ如シ

一 地表ノ高低ヲ永久ニ變更スル土工即チ堆土、開鑿等

二 溝渠、鹽田、排水及濫水

三 公園、育樹場、竹木林、菓園及桑茶畑

四 耕作地

第十六條 各區内ニ於テ陸軍大臣ノ許可ヲ得ルニ非サレハ新設若ハ變更スルコトヲ得サルモノ左ノ如シ

堤塘、運河、道路、橋梁、鐵道、隧道、永久棧橋

第十七條 本章ノ禁止制限ニ違背シ新設改築増築變更シタル家屋倉庫其ノ他ノ築造物又ハ累積物等ハ違背者ヲシテ期限ヲ定メテ之ヲ除去セシメ地形ノ變更ニ係ルモノハ之ヲ復舊セシメ期限内ニ除去復舊セサルトキ若ハ其ノ期限内ニ終了スルノ見込ナキトキ又ハ其ノ方法宜シキヲ得サルトキハ官廳ニ於テ自ラ之ヲ執行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ執行セシメ其ノ費用ヲ義務者ヨリ徴收スルコトヲ得

前項義務者ニ於テ負擔スヘキ費用ハ國稅ノ滯納處分ニ關スル規定ニ依リ之ヲ徴收スルコトヲ得但シ政府ハ國稅ニ次キ先取權ヲ有ス

本條ノ處分ハ第十六條ノ違背者ニ就テハ陸軍大臣之ヲ爲シ其ノ他ノ違背者ニ就テハ要塞司令官之ヲ爲スヘシ

第十八條 地帯ノ禁止制限ニ關シ官廳ノ處分ニ服セサル者ハ其ノ處分ニ就テノ告示

又ハ通達ヲ受タル日ヨリ三十日以内ニ陸軍大臣ニ訴願スルコトヲ得但シ訴願中處分ノ執行ヲ妨ケス

第十九條 陸軍大臣ハ場合ニ依リ或區域内ニ限リ特ニ本章禁止制限ノ全部若ハ一部ヲ解除スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ解除ノ事項及其ノ區域ヲ告示ス之ヲ變更スルトキ亦同シ

第二十條 本章ノ禁止及制限ハ陸海軍又ハ陸海軍官廳ノ行動又ハ施設ニ對シテハ之ヲ適用セス但シ陸軍防禦營造物ノ地帯及第七條第二項ノ區域ニシテ海軍防禦營造物ノ地帯及第七條第二項ノ區域ト相關聯スル場合若ハ軍港要港又ハ海軍用地ニ係ル場合竝陸軍用地カ海軍防禦營造物ノ地帯及第七條第二項ノ區域ト相關聯スル場合ニ於テ當該陸軍官廳若ハ海軍官廳カ此ノ法律ニ掲クル許可又ハ承認ヲ爲シ若ハ第十九條ノ處分ヲ爲サントスルトキハ陸軍官廳ハ當該海軍官廳ニ海軍官廳ハ當該陸軍官廳ニ協議スルコトヲ要ス

第二十一條 陸海軍以外ノ官廳ニ於テ第七條第九條第十一條乃至第十五條ニ掲クル

事項ヲ爲サントスルトキハ要塞司令官ノ承認第十六條ニ掲クル事項ヲ爲サントスルトキハ陸軍大臣ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

第三章 罰則

第二十二條 第七條及第九條ノ禁ヲ犯シタル者ハ十一日以上一年以下ノ重禁錮又ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス第八條ニ依リ要塞司令官ニ退去ヲ命セラレ其ノ命ニ從ハサル者亦同シ

第二十三條 第七條及第九條ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第二十四條 第十條乃至第十三條第十五條及第十六條ニ違犯シタル者ハ二圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十五條 第十四條ニ違犯シタル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十六條 要塞地帯各區及第七條第二項ノ區域ヲ標示スル爲ニ設ケタル標石、標木、標札ノ類ヲ移轉シ又ハ之ヲ毀壞シタル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ又

ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ過失ニ出テタル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第四章 雜則

第二十七條 要塞地帯創設告示ノ當時家屋倉庫築造物等ノ新設、變更、改築、増築中ニ係ルモノハ此ノ法律ノ禁止制限ヲ適用セス

第二十八條 要塞地帯各區及第七條第二項ノ區域ヲ標示スル標石、標木若ハ標札ノ類ヲ建設スル爲ニ要スル敷地ノ買収及使用ニ關シテハ明治二十三年法律第二十三號陸地測量標條例ノ規定ヲ準用ス

第二十九條 此ノ法律ノ施行ニ關シ必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

第三十條 此ノ法律ハ軍港規則及要港規則ノ效力ヲ妨クルコトナシ

第三十一條 明治三十一年勅令第七十六號ハ此ノ法律ニ依リ第三條又ハ第六條ノ告示ヲ爲シタル箇所ニ限り其ノ效力ヲ失フ

●陸軍省令第十四號 (明治三十三年六月十六日)

要塞地帯法施行規則

第一條 要塞地帯法ニ於テ不燃質物ト稱スルハ金屬、煉瓦、石、土及之ニ準スヘキモノヲ謂ヒ道路橋梁ト稱スルハ國道縣道及道幅三間以上ノ公共道路及此等ノ路線ニ架設スル橋梁ヲ謂フ

第二條 左ニ掲クル事項ハ許可ヲ受クルノ限ニ在ラス

- 一 港灣ニ出入スル艦船ノ航行ニ必要ナル錘測
- 二 土地ノ丈量但シ地目地類ノ變換土地分合境界査定家屋倉庫ノ新設變更竝本項第三號乃至第十號ニ掲クル作業ニ要スルモノニ限ル
- 三 長サ百間ヲ超エサル生垣及木造ノ圍牆ノ新設變更
- 四 建坪三十坪ヲ超エサル平家ノ家屋倉庫ノ新設變更但シ不燃質物ヲ以テ築造セサルモノニ限ル
- 五 高低一尺面積百坪ヲ超エサル堆土、開鑿等

三十四年
十月省令
第十五號
參看

- 六 宅地内ニ於テスル築山(高サ六尺以)泉水(深サ三尺ニ滿)等ノ新設變更(下ノモノ)
- 七 不可抗力ニ由リ變更シタル土地物件ヲ原狀ニ復スル作業
- 八 深二尺幅三尺ヲ超エサル溝渠及排水灌水ノ新設變更
- 九 竹木林ノ伐採
- 十 面積百坪ヲ超エサル育樹場菓園桑茶畑鹽田及耕作地ノ新設變更
- 第三條 要塞地帯法第十條及第十六條ノ禁止ヲ解除シタル場合ニ於テハ尙要塞司令官ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス
- 第四條 要塞司令官ノ許可ヲ得ムトスル者ハ左ニ掲クル事項ヲ記シ其作業地ヲ管轄スル市町村長ノ奥書ヲ得テ當該要塞司令官ニ願出ツヘシ
 - 一 要塞地帯法第七條ニ掲クルモノニ在リテハ其目的、區域及期限
 - 二 要塞地帯法第九條ニ掲クルモノニ在リテハ漁獵採藻ノ區域及期限、艦船繫泊ノ位置及期限、土砂掘鑿ノ區域、方法及期限
 - 三 要塞地帯法第十條(解除シタル)乃至第十二條並第十五條及第十六條(解除シタル)事項ニ限ル

- 項ニ
限ル)ニ掲クルモノニ在リテハ其目的、設計、位置及落成期限但シ同法第十一條第四號ニ掲クルモノニ在リテハ其器械器具設備ノ設計及其位置共
- 四 要塞地帯法第十三條ニ掲クルモノニ在リテハ累積物ノ種類、累積ノ目的、位置、高サ並期間
要塞地帯法第十四條ニ依リ許可ヲ得ムトスルモノハ前項ニ準ス
- 第五條 陸軍大臣ノ許可ヲ得ムトスル者ハ工事ノ種類、設計及落成ノ期日ヲ記シ地方長官ノ證明ヲ受ケ當該要塞司令官ヲ經由シテ陸軍大臣ニ願出ツヘシ但シ本則第七條ノ場合ニハ地方長官ノ證明ヲ要セス
- 第六條 府、縣、郡、市、町、村、水利組合其他公共團體並社團法人ニ在リテハ其ノ代表者ヨリ願出ツヘシ
- 府、縣、郡、市、町、村、水利組合其他公共團體ヨリ出願スル場合又ハ要塞地帯法第七條中撮影、摸寫、錄取ヲ出願スル場合若ハ本則第七條ノ場合ニハ第四條ノ奥書ヲ要セス

第七條 許可ヲ受クヘキ事項ニシテ別ニ法令ノ規定ニ依リ主務官廳ノ許可ヲ要スルモノハ先ツ其許可ヲ受ケ許可書ノ謄本ヲ添付スルコトヲ要ス

第八條 前諸條ノ規定ハ許可ヲ得タル事項ヲ變更セムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第九條 許可ヲ與ヘタルトキハ許可證ヲ交付ス

許可證ハ作業ヲ實施スル者必ス携帶シ何時ニテモ憲兵、衛戍服務ノ軍人及警察官吏ノ閲覽ニ供スヘシ

第十條 許可證ヲ失ヒタルトキハ速ニ其ノ再下付ヲ願出ツヘシ

前項ノ場合ニ於テハ同時ニ最寄警察官署又ハ憲兵屯所ニ其旨ヲ届出テ作業ヲ繼續スルコトヲ得

第十一條 許可ヲ受ケタル作業ノ場所ニ許可濟ノ旨ヲ記シタル標札ノ類ヲ

掲クヘシ但シ要塞地帯法第七條及第九條ニ掲クルモノニ在リテハ此限ニ在ラス

第十二條 許可ヲ受ケタル工事完成シタルトキ又ハ之ニ著手セス若ハ之ヲ中止シタルトキハ速ニ其旨ヲ作業地ヲ管轄スル市町村長ニ届出ツヘシ市町村長ハ之ヲ取纏

メ毎月末日ヲ以テ當該要塞司令官ニ報告スヘシ

第十三條 許可證ヲ所持スヘキ者ニシテ當該官ノ閲覽ヲ拒ミタル者ハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第十四條 本則ハ陸軍防禦營造物ノ地帯及要塞地帯法第七條第二項ノ區域ニ關聯セ

サル海軍防禦營造物ノ地帯及要塞地帯法第七條第二項ノ區域ヲ除キ總テノ要塞地帯及要塞地帯法第七條第二項ノ區域ニ關シテ之ヲ適用ス

第十五條 本則ハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

三十五年
六月勅令
第一百七十
一號參看

三十四年
十月勅令
第一百九十
五號參看

●勅令第二百五號（明治二十九年五月十一日）

師團司令部條例

第一條 師團長ハ陸軍中將ヲ以テ之ニ親補シ

天皇ニ直隸シ部下軍隊ヲ統率シ又師管内ノ聯隊區司令部ヲ管轄シ軍事ニ係ル諸件ヲ總理ス

第二條 師團長ハ其主管ニ係ル各部團隊ノ動員計畫ヲ掌リ又師管内徵兵事務並ニ召集事務ヲ統轄ス

前項ノ外近衛師團長ハ宮闕守衛ノ事ニ任シ第七師團長ハ屯田兵ヲ統率シ其ノ開墾耕稼ノ事ヲ掌ル

第三條 師團長ハ部下軍隊ノ練成ニ就テ其責ニ任ス但騎砲工輜重兵科専門ノ事ハ當該兵監ノ責任ニ屬ス

第四條 師團長ハ防務條例ノ規定ヲ除クノ外師管内ノ防禦及陸軍諸官廨諸建築物ノ保護ニ任ス

三十七年四月廿九號參看

三十五年一月十七號參看
三十二年二月十六號參看

地方長官地方ノ靜謐ヲ維持スルカ爲メ兵力ヲ請求スル時事急ナレハ直チニ之ニ應
スルコトヲ得其事地方長官ノ請求ヲ待ツノ違ナキ時ハ兵力ヲ以テ便宜處置スルヲ
得

前項ノ場合ニ於テハ直チニ之ヲ陸軍大臣參謀總長ニ報告シ東京ニ在リテハ東京衛
戍總督ニモ報告スヘシ

第五條 疾病其他非常ノ場合ニ際シ師團長一時其部下軍隊ヲ移轉セントスル時急ヲ
要スレハ之ヲ實行シテ後報告スルコト前條末項ニ同シ

第六條 師團長ハ其師管内ニ在ル陸軍諸隊及諸官廨ニ於ケル軍紀風紀ヲ統監シ軍法
會議ヲ管轄ス但シ近衛師團ノ諸隊ニ於ケル軍紀風紀ハ近衛師團長之ヲ統監スルモ
ノトス

第七條 師團長ハ兵器彈藥ニ關スル事ニ就テハ兵器支廠長ニ命令スルノ權ヲ有ス

第八條 師團長ハ軍政及人事ニ關シテハ陸軍大臣動員計畫作戰計畫ニ關シテハ參謀
總長教育ニ關シテハ教育總監ノ區處ヲ受ク

第九條 師團長ハ騎砲工輜兵科専門ノ事ニ就キ意見アレハ之レヲ當該兵監ニ告知ス
ルコトヲ得

第十條 師團長ハ陸軍軍隊檢閱條例ニ據リ檢閱ヲ行フ

第十條ノ一 師團長ハ隨時部下ノ團隊及官衙ヲ檢閲シ毎年概テ軍隊教育期ノ終リニ
檢閲ノ實況及意見ヲ奏上シ且陸軍大臣參謀總長及教育總監ニ報告スヘシ

第十條ノ二 前諸條中衛戍勤務ニ屬スル事項ハ東京ニ在リテハ第一師團長ニ、師管
ニ係ル事項及第四條第二項第三項ハ近衛師團長ニ之ヲ適用セス

第十一條 師團司令部ハ左ノ各部ヨリ成ル

一 參謀部

二 副官部

參謀部及副官部ヲ合シテ特ニ幕僚ト稱ス

三 法官部

四 經理部

師團司令部條例

は四終

五 軍醫部

六 獸醫部

近衛師團司令部ニ在リテハ法官部ヲ置カス

師團經理部ノ組織權限ハ別ニ條例ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 參謀長ハ幕僚ノ事務ヲ統監シ師團長ニ對シテ事務整理ノ責ニ任ス

第十三條 幕僚ノ各將校ハ參謀長ノ監視ヲ受ケ各自擔任ノ事務ヲ掌リ其師團長ニ具申スヘキ事ニ就テハ先ツ參謀長ノ承認ヲ得ヘキモノトス

第十四條 法官部長軍醫部長及獸醫部長ハ各其主任ノ事ニ就キ事務整理ノ責ニ任ス
各部長及兵器支廠長ヨリ師團長ニ具申スヘキ事ニ就テハ先ツ參謀長ニ開陳スヘシ

附則

本令ハ明治三十七年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

●勅令第五十四號 (明治二十九年三月二十五日)

旅團司令部條例

第一條 旅團長ハ少將ヲ以テ之ニ補シ部下聯隊ヲ統率ス

第二條 聯隊内ノ訓練、風紀、軍紀、將校ノ教育、內務經理及動員計畫ノ事ハ聯隊長ノ責任ニシテ旅團長之ヲ統監ス

第三條 旅團長ハ旅團ヲ以テスル訓練ニ任ス

步兵旅團長ハ當該旅管ニ於ケル聯隊區司令部、沖繩警備隊區司令部ノ徵兵事務ヲ監督ス

第四條 步兵旅團長ハ騷擾變亂ノ事アルニ際シ地方長官ヨリ兵力ヲ請求スルトキ事急ニシテ指揮ヲ請フノ暇ナキトキハ直ニ之ニ應シテ後師團長ニ報告スヘシ

第五條 副官ハ司令部一般ノ事務ニ服シ且ツ會計ノ事ヲ管理ス

第六條 書記ハ上官ノ指揮ヲ受ケ記注計算ノ事ニ從フ

附則

旅團司令部條例

三十三年
十月勅令
第四百十
四號參看

三十六年
二月勅令
第十號參
看

第七條 本條例ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

●勅令第五十六號 (明治二十九年三月二十五日)

聯隊區司令部條例

第一條 各聯隊區ニ司令部ヲ置ク其ノ職員左ノ如シ

司令官 佐官

副官 大(中)尉

書記

書記ハ現役、豫備、後備ノモノヲ以テ充ツルコトヲ得

第二條 司令官ハ師團長ニ隸シ聯隊區内徴兵事務及召集事務ヲ掌ル但シ徴兵事務ニ關シテハ尙當該旅管ニ於ケル歩兵旅團長ノ監督ヲ受ク

第三條 司令官ハ聯隊區内ニ現在スル在郷陸軍軍人及各補充兵役ニ在ル者ノ身上異動其ノ他願届ニ關スル事ヲ掌ル

第四條 副官ハ司令部一般ノ事務ニ服ス

第五條 書記ハ上官ノ指揮ヲ受ケ記注計算ノ事ニ從フ

三十二年
十月勅令
第七號
參看
三十五年
九月勅令
第九號
參看
三十六年
二月勅令
第十一號
參看

第六條 聯隊區司令部ノ位置ハ陸軍大臣之ヲ定ム

附則

本令ハ明治三十五年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●陸達第六十七號 (明治二十九年四月二十一日)

聯隊區司令部服務規則

- 第一條 聯隊區司令部ノ事務ハ軍隊及地方ニ直接ノ關係ヲ有スルヲ以テ司令官ハ常ニ彼此ノ事情ヲ詳ニシ法律命令ノ範圍内ニ於テ其行務ヲ考按計畫シ部事ヲ整頓シ就中召集事務ハ有事ノ日ニ方リ毫モ遺算ナキヲ期スルヲ以テ責任トス
- 第二條 司令官ハ司令部職員及部務補助ノ爲派遣セラレタル將校以下ノ事務分掌ヲ定ムヘシ
- 第三條 司令官ハ師團長ノ認可ヲ得テ臨時聯隊區内ヲ巡視スルコトヲ得
- 第四條 司令官ハ部内ノ職員ヲ管内島廳郡市役所若クハ町村役場等ニ差遣スルコトヲ得
- 第五條 司令官ハ事務特ニ繁劇ノトキハ臨時傭人ヲ使用スルコトヲ得但成ルヘク其地所在ノ豫備役後備役ノ下士兵卒ヲ使用スヘシ
- 第六條 削除

三十五年
九月十二日
陸達
第九十二號
參看

三十一年
三月二十五日
陸達
第二十五號
參看

聯隊區司令部服務規則

三十三年十一月陸達第百十五號參看

- 第七條 副官ハ部内ノ事務ヲ管理シ稟申申請照會回答等ノ文書ヲ起草シ及書記ノ勤惰ヲ監視シ部内一切ノ取締ニ任シ且廳印ヲ管守スヘシ
- 第八條 高級故參ノ副官ハ司令官ノ職印及廳印ヲ管守スヘシ
- 第九條 削除
- 第十條 削除
- 第十一條 書記ハ司令部ノ事務ニ服シ他向ヨリ到來スル一切ノ文書ヲ受領シ其親展ニ非サルモノハ總テ開封シ之ニ受領番號ヲ附シ副官ニ差出スヘシ
- 第十二條 削除
- 第十三條 聯隊區司令部ニ備置クヘキ簿冊左ノ如シ
 - 一 上申録
 - 二 往復録
 - 三 豫備役將校同相當官兵籍及戰時名簿
 - 四 後備役將校同相當官兵籍及戰時名簿

三十三年三月陸達第百二十六號參看

- 五 豫備役下士兵籍及戰時名簿
- 六 後備役下士兵籍及戰時名簿
- 七 豫備役兵卒兵籍及戰時名簿
- 八 後備役兵卒兵籍及戰時名簿
- 九 第一補充兵召集ニ應シタル者並輜重輸卒兵籍及戰時名簿
- 十 未教育第一補充兵及第二補充兵ノ補充兵名簿召集ニ應シタル第二補充兵ニ在リテハ其ノ兵籍及戰時名簿
- 十一 充員召集名簿
- 十二 待命員名簿
- 十三 歸休兵兵籍及戰時名簿
- 十四 抽籤名簿
- 第十四條 凡兵籍後備役補充兵役ハ兵種ヲ分チ編綴シ増減異動アル毎ニ加除訂正ス後備役補充兵役滿期者ヲ除クハ兵籍及戰時名簿ニハシ
- 補充兵名簿ハ前項ト同一ノ取扱ヲナスヘシ但シ第一補充兵輜重輸卒ノ補充兵名簿

ハ本人召集ニ應シタル後ハ之ヲ保存スルヲ要セス

第十五條 上申録往復ハ十箇年間保存スヘシ

第十六條 後備兵役、補充兵役満期並ニ傷痍疾病ニ由リ常備後備役、補充兵役免除、兵役免除トナリ又ハ服役十二箇年四箇月ヲ過キ若クハ現役定限年齢ニ滿チ免官免役トナリタル者及死亡者ノ兵籍ハ種類ヲ分チ之ヲ別冊トナシ三箇年間保存スヘシ」恩給ヲ受クヘキ資格アル者ノ兵籍ハ其家族扶助料ヲ受クヘキ資格消滅ニ至ル迄保存スヘシ但資格ノ消滅ハ陸軍省ヨリ通報ス

第十七條 削除

第十八條 充員召集名簿待命員名簿ハ動員計畫年度經過後棄却シ抽籤名簿ハ三箇年間保存スヘシ

第十九條 削除

第二十條 豫備役後備役下士兵卒歸休兵及第一補充兵中勤務演習召集ノ猶豫若クハ簡閱點呼免除ヲ願出ル者アルトキハ其事實ヲ審覈シ確實ト認ムルモノハ許可ノ指

合ヲ爲スヘシ

第二十一條 豫備役後備役將校同相當官下士兵卒歸休兵及第一補充兵中寄留地師管ニ於テ勤務演習ヲ爲サンコトヲ許可ノ者アルトキハ之ヲ寄留地聯隊區司令部又ハ警備隊司令部ニ通牒スヘシ寄留地聯隊區ニ於テ簡閱點呼ヲ受クルコトヲ許可シタル者アルトキ亦同シ

第二十二條 前條ノ通牒ヲ爲シタル後勤務演習召集又ハ簡閱點呼ヲ免除セラレ若ハ充員召集ニ應シ其ノ他勤務演習召集又ハ簡閱點呼ノ施行ヲ要セサル者ヲ生スルトキハ其旨更ニ寄留地聯隊區司令部又ハ警備隊司令部ニ通牒スヘシ

第二十三條 豫備役後備役下士兵卒歸休兵及補充兵中永久服役ニ堪ヘサル旨届出ル者アルトキハ聯隊區司令官其事實ヲ審覈シ確實ト認タルモノハ師團長ニ上申シ兵役免除ノ處分ヲ請フヘシ但シ疑ニ涉ルモノハ簡閱點呼若クハ徵兵検査ノ際之ヲ實查シ時宜ニ由リ軍醫ヲシテ診斷セシメ其意見ヲ徵シ然ル後本條ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十四條 削除

第二十五條 豫備役後備役下士卒卒歸休兵及補充兵ノ願屆書ハ總テ一通ヲ出サシメ其指令ヲ與フヘキモノハ願屆書ノ末尾ニ其ノ要領ヲ記シ司令官ノ署名押印ヲ爲シ本人ニ交付スヘシ

總テ指令ヲ與ヘタルモノハ其ノ要旨ヲ記シ保存スヘシ

第二十六條 聯隊區司令部ニハ書記一名交番ニ宿直ヲ爲サシムルモノトス

第二十七條 削除

第二十八條 本則ハ之ヲ警備隊司令部及警備隊區司令部ニ適用ス

附則

本則ハ明治三十五年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ明治三十四年及其ノ以前徵集ノ第一補充兵中未教育ノ者ノ兵籍及戰時名簿ハ從前ノ規定ニ據リ其ノ補充兵名簿若ハ抽籤名簿ハ本人召集ニ應スルマテ之ヲ保存スヘシ

三十四年
四月九日
勅令
第九號
參看

三十五年
十月二日
勅令
第二十三號
參看
三十二年
五月五號
勅令
第二十五號
參看

●勅令第三百三十七號 (明治三十一年十一月二十九日)

憲兵條例

第一章 總則

第一條 憲兵ハ陸軍大臣ノ管轄ニ屬シ主トシテ軍事警察ヲ掌リ兼テ行政警察、司法警察ヲ掌ル

第二條 憲兵ハ其ノ職務ノ執行ニ付軍事警察ニ係ルモノハ陸軍大臣及海軍大臣行政警察ニ係ルモノハ内務大臣司法警察ニ係ルモノハ司法大臣ノ指揮ヲ承ク臺灣ニ於ケル軍事警察、行政警察、司法警察ニ係ルモノハ臺灣總督ノ指揮ヲ承ク

第三條 憲兵ハ行政警察、司法警察ニ係ル事件ニ付テハ警視總監、北海道廳長官、府縣知事、東京府知事及檢事ノ指示ヲ承ク但シ臺灣ニ於ケル行政警察、司法警察ニ係ル事件ニ付テハ廳長及法院檢察官ノ指示ヲ承ク

憲兵ハ要塞地帶法ノ施行ニ付テハ要塞司令官又ハ要塞司令官ノ職務ヲ行フ官廳、軍港要港規則ノ施行ニ付テハ鎮守府司令長官若ハ要港部司令官又ハ鎮守府司令長

官若ハ要港部司令官ノ職務ヲ行フ官廳ノ指示ヲ承ク

憲兵ハ臺灣ニ於ケル地方守備ニ關スル軍事警察ニ付テハ臺灣守備混成旅團長旅團長ヲサレ地ニ在テハ守備隊長ノ指示ヲ承ク

第四條 憲兵ハ其ノ職務上ニ關シ正當ノ職權ヲ有スル者ヨリ要求アルトキハ直ニ之ニ應スヘシ

第五條 憲兵ハ左ニ記載スル場合ニアラサレハ兵器ヲ用ウルコトヲ得ス

一 暴行ヲ受クルトキ

二 其ノ占守スル土地若ハ委託セラレタル場所又ハ人ヲ防衛スルニ兵力ヲ用ウルノ外他ニ手段ナキトキ又ハ兵力ヲ以テセサレハ抗抵ニ勝ツ能ハサルトキ

第二章 配置、職員

第六條 東京ニ憲兵司令部ヲ置キ各憲兵隊管區ニ一憲兵隊ヲ配置ス

憲兵隊管區ハ別表ニ依ル但シ臺灣ニ於ケル憲兵隊管區ハ臺灣總督之ヲ定ム

第七條 各憲兵隊本部ハ師團司令部所在地ニ之ヲ置ク

各憲兵隊ハ之ヲ分隊ニ分ツ其ノ配置及管區ハ陸軍大臣之ヲ定ム

臺灣ニ於ケル憲兵隊本部ノ位置並分隊ノ配置及其ノ管區ハ臺灣總督之ヲ定ム

第八條 削除

第九條 削除

第十條 憲兵司令部ニ左ノ職員ヲ置ク

憲兵司令官

憲兵副官

憲兵下士

憲兵隊ニ左ノ職員ヲ置ク

憲兵隊長

憲兵隊副官

憲兵分隊長

憲兵隊附士官

憲兵准士官、下士、上等兵

憲兵司令部及憲兵隊ニハ經理部、衛生部及獸醫部士官、下士、判任文官並蹄鐵工長ヲ附スルコトヲ得

第十一條 削除

第十二條 陸軍大臣及臺灣總督ハ必要ニ際シ一時憲兵隊ノ一部ヲ其ノ管區外ニ派遣スルコトヲ得

第十三條 削除

第三章 職務

第十四條 憲兵司令官ハ各憲兵隊ヲ統轄シ司令部ノ事務ヲ總理ス

第十五條 憲兵司令官ハ憲兵隊ノ軍紀、風紀、訓練、教育及職務服行ノ程度ヲ檢閲スヘシ

第十六條 憲兵隊長ハ各分隊ヲ統轄シ其ノ勤務方法ヲ指定シ隊中ノ事務ヲ總理ス

第十六條ノ二 憲兵副官ハ司令官、憲兵隊副官ハ隊長ノ命ヲ承ケ各部内ノ事務ニ服

ス

第十七條 憲兵分隊長ハ部下ヲ指揮監督シ其ノ勤務ノ方法ヲ指定シ分隊ノ事務ヲ處理ス

第十八條 憲兵隊附士官ハ隊長ノ命ヲ承ケ勤務ニ服ス

憲兵分隊副長ハ支部ノ長ト爲リ分隊長統轄ノ下ニ在テ分隊ノ一部ヲ指揮スルコトアルヘシ

第十九條 削除

第二十條 憲兵ノ服務ニ係ル規定ハ各主管大臣之ヲ定ム但シ臺灣ニ在テハ臺灣總督之ヲ定ム

附則

第二十一條 當分ノ内憲兵隊長、副官、分隊長、隊附士官ハ豫備役、後備役ノ者ヲ以テ充ツルコトヲ得其ノ身分取扱ハ召集中ノ者ニ同シ

第二十二條 削除

第二十三條 本令ハ明治三十一年十二月一日ヨリ施行ス
(別表)

憲兵隊管區表

管 區 名	區	域
第一憲兵隊管區	第一師管	
第二憲兵隊管區	第二師管	
第三憲兵隊管區	第三師管	
第四憲兵隊管區	第四師管及第十一師管內德島縣板野郡	
第五憲兵隊管區	第五師管及第十一師管內愛媛縣越智郡	
第六憲兵隊管區	第六師管	
第七憲兵隊管區	第七師管	
第八憲兵隊管區	第八師管	

第九憲兵隊管區	第九師管
第十憲兵隊管區	第十師管
第十一憲兵隊管區	第十一師管(第四第五憲兵隊管區ニ屬スル郡ヲ除ク)
第十二憲兵隊管區	第十二師管
備考 臺灣ニ於ケル憲兵隊管區名ハ本表管區ノ順ヲ追ヒ番號ヲ附ス	

附 則

本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

三十二年十月二十七日
勅令第四百二十一號
陸軍砲兵工科學校條例

三十五年七月十八號
勅令第四百八十二號
參看

●勅令第四百二十一號 (明治三十二年十月二十七日)

陸軍砲兵工科學校條例

第一條 陸軍砲兵工科學校ハ東京砲兵工廠ニ置キ同廠提理ノ管理ニ屬シ火工學生ニ
ハ火工術ヲ教授シ砲兵工長候補者ニ鞍工銃工木工鍛工長タルニ必要ナル教育ヲ爲
ス所トス

第二條 火工學生ハ砲兵隊第二年兵中ヨリ選抜シテ分遣シ砲兵工長候補者ハ陸海軍
豫備役後備役ニ在ラサルモノ及各兵科初年兵ニシテ召募試験ニ及第シタル者ヨリ
採用ス

砲兵工長候補生中兵卒ヨリ採用分遣セシモノヲ砲兵工長候補學生其他ヨリ採用セ
シモノヲ砲兵工長候補生徒ト稱ス

第三條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク
校長
學校附

主計

軍醫

下士並判任文官

第四條 削除

第五條 校長ハ東京砲兵工廠提理ニ隸シ校務ヲ總理シ學術進步ノ責ニ任ス

第六條 學校附砲兵大中尉ハ訓育及學術ノ教授ニ任シ日常學生生徒ノ躬行ヲ監視シ分擔ノ教育ニ就テハ擔保ノ責ニ任ス

助教ハ圖畫等ノ教授ヲ擔任ス

第七條 學期ハ火工學生ニ在テハ概テ一箇年砲兵工長候補者ニ在テハ概テ二箇年トス

第八條 火工學生及砲兵工長候補者各工科専門ノ實業ハ東京砲兵工廠ニ於テ之ヲ教授ス學校ノ內務ハ概テ軍隊內務ノ規定ニ依ル

第九條 火工學生及砲兵工長候補者ノ人員ハ陸軍大臣之ヲ告達ス

第十條 火工學生分遣ノ告達アレハ師團長ハ砲兵隊長ヲシテ修學ニ適當ノ者ヲ選定シ入校期十日前提理東京砲兵工廠提理以下之ニ倣フニ通報セシムヘシ

第十一條 砲兵工長候補學生ヲ命セラレタルモノモ亦前條ニ準シ其人名ヲ提理ニ通報スヘシ

第十二條 火工學生及砲兵工長候補學生ハ校内ニ居住セシメ修學ニ所用ノ書籍器具機械雜具消耗品並修業用ノ原料ハ學校ヨリ貸與又ハ支給スルモノトス但武器被服裝具ハ所屬隊ヨリ携行セシム

第十三條 砲兵工長候補生徒ニ關スル一切ノ費用ハ官給トシ且手當金ヲ給ス

第十四條 火工學生及砲兵工長候補學生分遣入校中願屆等ニ關スル諸件ハ總テ提理ノ管理ニ屬ス

第十五條 火工學生及砲兵工長候補者ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許サス

第十六條 學期末ニ於テ終末試験ヲ施行シ及第スル者ニハ卒業證書ヲ附與シ火工學生ニ在テハ原隊ニ復歸シ其試験成績ヲ提理ヨリ師團長ヲ經テ當該砲兵隊長ニ移ス

第十七條 火工學生及砲兵工長候補者ニシテ左ニ掲クル事項ノ一ニ該ル者ハ學生若クハ工長候補生ヲ免ス

一 學術ノ修得全カラス卒業ノ目途ナキ者

二 軍紀ヲ紊リ又ハ屢法則ヲ犯シ若クハ品行不正ニシテ改悛ノ目途ナキ者

三 傷痍疾病ニ依リ卒業ノ目途ナキ者

四 卒業試験ニ落第シタル者

第十八條 前條各項ノ一ニ該ルモノアルトキハ學校長其事由ヲ悉シ提理ニ具狀シ認可ヲ受ケ之ヲ處分ス

第十九條 火工學生及砲兵工長候補者中傷痍疾病其他ノ事故ニ依リ終末試験ヲ受ケサルモ望ミアル者ハ若干日ノ後特ニ受験セシムルコトヲ得又第十七條第四項ニ該ルモノニシテ尙ホ望ミアル者ハ若干日間學術ノ補修ヲ爲シ卒業セシムルコトヲ得

附則

本令ハ明治三十六年十二月一日ヨリ施行ス

三十二年五月三十一日勅令
三十二年三月十五日勅令
三十二年七月十七日勅令
三十二年七月十七日勅令
四號參看

●勅令第二百二十五號 (明治三十一年十月一日)

陸軍砲工學校條例

第一條 陸軍砲工學校ハ砲工兵科ノ少尉ヲ以テ學生ト爲シ砲工兵各科ノ勤務ニ必要ナル學術ヲ教授スル所トス但少尉ニシテ入學シ得サル者ハ中尉又ハ大尉ニ進級ノ後ニ在テモ學生ト爲スコトヲ得

第二條 學生教育ノ綱領ハ教育總監之ヲ定ム

第三條 學生教育ノ實施ハ教則ニ依ル該教則ハ前條ノ教育綱領ニ基キ校長案ヲ具シ教育總監ノ認可ヲ請ケ之ヲ定ム

第四條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長

副官

教官

軍醫

獸醫

副監督

下士、判任文官

第五條 校長ハ教育總監ニ隸シ校務ヲ總理シ學生教育ノ責ニ任ス

第六條 副官ハ校中一般ノ庶務ヲ掌ル

第七條 砲工兵科教官ハ軍事學各科ノ授業ヲ分擔シ高級故參ノ教官ヲ以テ各科ノ科長トス

第八條 馬術教官ハ學生ノ馬術訓練ニ任シ兼テ校廡一切ノ事ヲ統ヘ馬匹ノ調教ヲ掌ル

第九條 文官教官ハ數學物理學化學圖學及外國語學ノ授業ヲ分擔ス

第十條 學生ノ修學期ハ概テ一箇年トシ之ヲ普通科ト稱ス

第十一條 前條修學ヲ終リタル學生中ヨリ各兵科毎ニ三分ノ一以内ヲ選拔シ更ニ一箇年在學セシメ尙須要ナル學術ヲ修メシム之ヲ高等科ト稱ス

三十四年
二月勅令
第三號參
看

第十二條 學生ノ人員及入校期日ハ其時々教育總監之ヲ定メ陸軍大臣之ヲ告達ス

第十三條 削除

第十四條 學生ハ校外ニ居住セシメ修學ニ所要ノ馬匹、馬具、書籍、器具、消耗品ハ貸與又ハ支給スルコトヲ得

第十五條 學生中ノ願屆其他業務ニ關スル諸件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第十六條 學生ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許サス

第十七條 學生中疾病及其他ノ事故ニ依リ修學ノ目途ナキ者ハ校長其事由ヲ具シ教育總監ノ認可ヲ請ケ退校セシム

第十八條 普通科學生中左ノ事項ニ該ル者ハ校長其事由ヲ具シ教育總監ノ認可ヲ請ケ滯學ヲ命ス

一 疾病及其他ノ事故ニ依リ修學期內ニ所定ノ學術ヲ修メ得サル者

二 卒業試験ヲ受ケ得サル者

三 卒業試験ニ落第セシ者

第十九條 高等科學生ニシテ前條第一第二項ニ該ル者アルトキハ校長ハ教育總監ノ認可ヲ請ケ滯學ヲ命スルコトヲ得

第二十條 校長ハ修學期末ニ於テ學生ノ卒業試験ヲ施行シ各教官ヲ集メ會議ヲ開キ修學ノ成績ヲ調査シ考科列序ヲ定メ教育總監ノ認可ヲ請ケ及第者ニ卒業證書ヲ附與ス

第二十一條 高等科卒業者中若干名ヲ選テ員外學生ト爲シ更ニ必要ナル科學ヲ研究セシメ又ハ外國駐在員トシテ派遣スルコトヲ得其在學又ハ駐在期限等ハ教育總監陸軍大臣ト商議シテ之ヲ定ム

第二十二條 卒業證書ヲ付與シタル者ノ中更ニ高等科若クハ員外學生トシテ在學スル者及野戰要塞各砲兵射擊學校乙種學生トシテ入校ヲ命セラレタル者ノ外ハ校長直ニ之ヲ歸隊セシム

第二十三條 普通科學生ニシテ退校ヲ命セラレタル者ハ隊長ノ上申ニ依リ教育上便宜ノ時期ニ於テ再ヒ入學ヲ命スルモノトス

第二十四條 滯學若クハ再ヒ入學ヲ命セラレタル學生修學ヲ終レハ第二十條ニ準シ卒業證書ヲ附與ス

第二十五條 普通科學生ニシテ前條卒業試験ニ落第セシトキハ歸隊自習ノ上隊長ノ上申ニ依リ更ニ試験ヲ受ケシメ及第者ニハ卒業證書ヲ附與シ尙落第シタル者ハ特別ノ詮議ニ附ス

第二十六條 毎年學生ニ三週間以内ノ夏期休暇ヲ與フルコトヲ得

第二十七條 教官ハ教育上便宜ノ時期ニ於テ隊附勤務ヲ爲サシムルコトアルヘシ

附則

明治三十三年勅令第七號ハ之ヲ廢止ス

三十六年
九月勅令
第三百三十
四號參看

●勅令第二百三十一號 (明治三十一年十月一日)

陸軍野戰砲兵射擊學校條例

第一條 陸軍野戰砲兵射擊學校ハ學生ニ野戰砲兵ノ射擊及戰術ノ訓練ヲ爲シ以テ各隊教育ノ進歩ヲ圖リ常ニ射擊及戰術ノ調査研究ヲ爲シ且野戰砲兵材料ノ研究並試驗ヲ行フ所トス

第二條 學生ヲ分テ左ノ二種トス

甲種 各野戰砲兵隊ヨリ分遣スル大中尉學生

乙種 砲工學校卒業ノ上入校スル中少尉學生

第三條 前條ノ外時トシテ佐官ヲ召集シ所要ノ修學ヲ爲サシムルコトヲ得但修學期日ハ其時々教育總監ノ移牒ニ依リ陸軍大臣之ヲ告達ス

第四條 學生ノ訓練ニ供シ且諸般ノ研究ニ充ツル爲メ本校ニ教導大隊ヲ置キ野戰砲兵隊ヨリ下士兵卒ヲ分遣シテ之ヲ編成ス

第五條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

三十三年
八月勅令
第三百四
十七號參
看

三十五年
七月勅令
第七十七
號參看

校長

副官

教官

教導大隊長

教導大隊副官

教導大隊中隊長

教導大隊附

軍醫

獸醫

副監督

准士官、下士、判任文官

第六條 校長ハ野戰砲兵監ニ隸シ校務ヲ總理シ學術進步ノ責ニ任ス

第七條 副官ハ校中一般ノ庶務ヲ掌ル

第八條 教官ハ各學術科ノ授業ヲ分擔シ且野戰砲兵ニ關スル學術、材料ノ調査研究及試験ニ任ス

第九條 教導大隊ノ大隊長以下ノ服務ハ軍隊内務ノ定則ヲ適用ス

第十條 學生ノ修學期左ノ如シ

甲種學生ハ概テ三箇月トシ毎年二回ニ分テ入校セシム

乙種學生ハ概テ二箇月トシ甲種學生ノ修學期中ニ併セテ入校セシム

第十一條 學生ノ人員及入校期日ハ其時々教育總監ノ移牒ニ依リ陸軍大臣之ヲ告達ス但シ砲工學校卒業ノ上直ニ入校スル學生ニ在リテハ教育總監之ヲ命ス

第十二條 學生分遣ノ告達アレハ師團長ハ隊長ヲシテ修學ニ適當ノ者ヲ選定シ入校期二十日前ニ其人名ヲ野戰砲兵射擊學校長ニ通報セシムヘシ

第十三條 學生ハ校外ニ居住セシメ修學ニ所要ノ兵器、彈藥、馬匹、馬具、書籍、器具ハ貸與スルコトヲ得

第十四條 學生中ノ願届其他業務ニ關スル諸件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第十五條 學生ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許サスト雖モ疾病及其他ノ事故ニ因リ學術修得ノ目途ナキ者ハ校長其事由ヲ具シ野戰砲兵監ノ認可ヲ請ケ退校セシム

第十六條 校長ハ修學期末ニ於テ各教官ヲ集メ會議ヲ開キ學生修學ノ成績ヲ調査シ野戰砲兵監ノ認可ヲ請ケ修得證明書ヲ作り署名捺印シ師團長ヲ經テ本人所屬ノ隊長ニ送付シ學生ヲ歸隊セシム

第十七條 教導大隊ハ分遣ノ下士ハ現役尙二箇年以下ノ期アル者兵卒ハ前年十二月入營ノ者中ヨリ選拔スヘシ

第十八條 教導大隊ハ分遣ノ下士兵卒ハ所屬隊ヨリ其武器、被服、裝具ヲ携行セシメ分遣中ハ特別ノ徽章ヲ附セシム

第十九條 教官ハ教育上便宜ノ時期ニ於テ隊附勤務ヲ爲サシムルコトアルヘシ

勅令第二百三十二號 (明治三十一年十月一日)

陸軍要塞砲兵射擊學校條例

三十五年
十月勅令
第二百三
十五號參
看

三十三年
八月勅令
第三百四
十八號參
看

第一條 陸軍要塞砲兵射擊學校ハ學生ニ要塞砲兵ノ射擊及戰術ノ訓練ヲ爲シ以テ各隊教育ノ進歩ヲ圖リ且要塞電燈使用員ニ電燈使用術ヲ教育シ射擊及戰術ノ調査研究ヲ爲シ要塞砲兵材料ノ研究並試驗ヲ行フ所トス

第二條 學生ヲ分テ左ノ三種トス

甲種 各要塞砲兵隊ヨリ分遣スル大中尉

乙種 砲工學校卒業ノ上入校スル中少尉

丙種 要塞電燈使用員ニ充ツル爲メ各要塞砲兵隊ヨリ分遣スル下士兵卒

第三條 前條ノ外時トシテ佐官ヲ召集シ所要ノ修學ヲ爲サシムルコトヲ得但修學期日ハ其時々教育總監ノ移牒ニ依リ陸軍大臣之ヲ告達ス

第四條 甲種及乙種學生ノ訓練ニ供シ且諸般ノ研究ニ充ツル爲メ本校ニ教導大隊ヲ置キ要塞砲兵隊ヨリ下士兵卒ヲ分遣シテ之ヲ編成ス

陸軍要塞砲兵射擊學校條例

第五條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長

副官

教官

教導大隊長

教導大隊副官

教導大隊中隊長

教學大隊附

軍醫

獸醫

副監督

准士官、下士、判任文官

第六條 校長ハ要塞砲兵監ニ隸シ校務ヲ總理シ學術進歩ノ責ニ任ス

第七條 副官ハ校中一般ノ庶務ヲ掌ル

第八條 教官ハ學生學術科ノ授業ヲ分擔シ且要塞砲兵ニ關スル學術、材料ノ調査研究及試験ニ任ス

第九條 教導大隊ノ大隊長以下ノ服務ハ軍隊内務ノ定則ヲ適用ス

第十條 學生ノ修學期左ノ如シ

甲種學生ハ概テ三箇月トシ毎年二回ニ分テ入校セシム

乙種學生ハ概テ二箇月トシ毎年一回ニ入校セシム

丙種學生ハ概テ一箇年トシ毎年一回ニ入校セシム但其修學期ハ場合ニ依リ陸軍大臣教育總監協議ノ上伸縮スルコトヲ得

第十一條 學生ノ人員及入校期日ハ丙種學生ニ在リテハ概テ四月其時々教育總監ノ移牒ニ依リ陸軍大臣之ヲ告達ス但シ砲工學校卒業ノ上直ニ入校スル學生ニ在リテハ教育總監之ヲ命ス

第十二條 學生分遣ノ告達アレハ師團長ハ隊長ヲシテ修學ニ適當ノ者ヲ選定シ入校

陸軍要塞砲兵射擊學校條例

期二十日前ニ其人名ヲ要塞砲兵射擊學校長ニ通報セシムヘシ但丙種學生中下士ハ現役尙二箇年以上ノ期アル者兵卒ハ前年十二月入營ノ者中ヨリ選抜スヘシ

第十三條 甲種及乙種學生ハ校外ニ丙種學生ハ校内ニ居住セシメ修學ニ所要ノ兵器、彈藥、馬匹、馬具、書籍、器具ハ貸與若ハ支給スルコトヲ得

丙種學生ノ武器、被服、裝具ハ所屬隊ヨリ之ヲ携行セシム

第十四條 學生中ノ願届其他業務ニ關スル諸件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第十五條 學生ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許サスト雖トモ疾病及其他ノ事故ニ依リ學術修得ノ目途ナキ者ハ校長其事由ヲ具シ要塞砲兵監ノ認可ヲ請ケ退校セシム

第十六條 校長ハ學生ノ修學期末ニ於テ各教官ヲ集メ會議ヲ開キ學生修學ノ成績ヲ調査シ要塞砲兵監ノ認可ヲ請ケ士官ニ在リテハ修得證明書ヲ作り署名捺印シ下士兵卒ニ在リテハ考科列序表ヲ製シ師團長ヲ經テ本人所屬ノ隊長ニ送付シ又下士兵卒ニハ更ニ學術修業ノ證書ヲ付與シ學生ヲ歸隊セシム

第十七條 教導大隊ハ分遣ノ下士ハ現役尙二箇年以上ノ期アル者兵卒ハ前年十二月

入營ノ者中ヨリ選抜スヘシ

第十八條 教導大隊ハ分遣ノ下士兵卒ハ所屬隊ヨリ其武器、被服、裝具ヲ携行セシメ分遣中ハ特別ノ徽章ヲ附セシム

第十九條 教官ハ教育上便宜ノ時期ニ於テ隊附勤務ヲ爲サシムルコトアルヘシ

三十五年
十一月
勅令第
二百六
十六號
參看

三十三年
八月
勅令第
三百四
十六號
參看

●勅令第二百三十號 (明治三十一年十月一日)

陸軍騎兵實施學校條例

第一條 陸軍騎兵實施學校ハ學生ニ戰術及馬術ノ訓練ヲ爲シ以テ各隊教育ノ進歩ヲ圖リ常ニ諸科學術ノ調査研究ヲ爲シ且乘馬具及馬匹器具ノ研究並試驗ヲ行フ所トス

第二條 學生ヲ分テ左ノ二種トス

一 戰術科學生ハ騎兵大中尉ヲ以テ之ニ充ツ但時トシテ少尉ヲ以テ學生ト爲スコトアルヘシ

二 馬術科學生ハ騎兵中少尉及下士ヲ以テ之ニ充ツ但時トシテ野戰砲兵、要塞砲兵、輜重兵士官及下士ヲ以テ學生ト爲スコトアルヘシ

第三條 戰術研究ノ爲メ時トシテ佐官ヲ召集スルコトヲ得但修學期日ハ其時々教育總監ノ移牒ニ依リ陸軍大臣之ヲ告達ス

第四條 學生ノ訓練ニ供シ且諸般ノ研究ニ充ツル爲メ本校ニ教導中隊ヲ置キ騎兵隊

三千五百年
七月勅令
第六百七十
六號參看

陸軍騎兵實施學校條例

加二

ヨリ下士兵卒ヲ分遣シテ之ヲ編成ス

第五條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長

副官

教官

教導中隊長

教導中隊附

庶長

調馬手長

軍醫

獸醫

副監督

准士官、下士、判任文官

第六條 校長ハ騎兵監ニ隸シ校務ヲ總理シ學術進歩ノ責ニ任ス

第七條 副官ハ校中一般ノ庶務ヲ掌ル

第八條 教官ハ戰術及馬術科學術ノ授業ヲ分擔シ且其各科ニ於ケル學術ノ調査研究
並乘馬具及馬匹器具ノ研究及試験ニ任シ高級故參ノ教官ヲ以テ各科ノ科長トス

第九條 庶長ハ校庭一切ノ事ヲ統ヘ馬匹ノ調教ニ任ス

第十條 調馬手長ハ庶長ニ隸シ馬匹ノ調教ヲ掌ル

第十一條 教導中隊ノ中隊長以下ノ服務ハ軍隊内務ノ定則ヲ適用ス

第十二條 學生ノ修學期ハ各科トモ概テ十一箇月トス但シ修學ヲ終リタル馬術科騎
兵士官學生中ヨリ若干名ヲ選抜シテ更ニ概テ一箇年在學セシメ尙須要ナル學術ヲ
習修セシムルコトヲ得

第十三條 學生ノ人員及入校期日ハ其時々教育總監ノ移牒ニ依リ陸軍大臣之ヲ告達
ス

第十四條 學生分遣ノ告達アレハ師團長ハ隊長ヲシテ各科ノ修學ニ適當ノ者ヲ選定
シ入校期二十日前ニ其人名ヲ騎兵實施學校長ニ通報セシムヘシ

陸軍騎兵實施學校條例

加三

第十五條 學生士官ハ校外ニ同下士ハ校内ニ居住セシメ修學ニ所要ノ兵器、馬匹、馬具、書籍、器具、消耗品ハ貸與又ハ支給スルコトアルヘシ但下士學生ハ所屬隊ヨリ其武器、被服、裝具ヲ携行セシム

第十六條 學生中ノ願届其他業務ニ關スル諸件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第十七條 學生ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許サスト雖モ疾病及其他ノ事故ニ依リ學術修得ノ目途ナキ者ハ校長其事由ヲ具シ騎兵監ノ認可ヲ請ケ退校セシム

第十八條 校長ハ修學期末ニ於テ各教官ヲ集メ會議ヲ開キ學生修學ノ成績ヲ調査シ騎兵監ノ認可ヲ請ケ士官ニ在テハ修得證明書ヲ作り署名捺印シ下士ニ在テハ考科列序表ヲ製シ師團長ヲ經テ本人所屬ノ隊長ニ送付シ又下士ニハ更ニ學術修業ノ證書ヲ附與シ學生ヲ歸隊セシム

第十九條 教導中隊ヘ分遣ノ下士兵卒ハ現役尙二箇年以上ノ期アル者兵卒ハ前年十二月入營ノ者ヨリ選拔スヘシ

第二十條 教導中隊ヘ分遣ノ下士兵卒ハ所屬隊ヨリ其武器、馬具、被服、裝具ヲ携行

セシメ分遣中ハ特別ノ徽章ヲ附セシム

第二十一條 教官ハ教育上便宜ノ時期ニ於テ隊附勤務ヲ爲サシムルコトアルヘシ

附則

第二十二條 當分ノ内必要ニ應シ學生ノ修學期ヲ短縮シ及戰術科學生ヲ一箇年二回召集スルコトヲ得

第二十三條 陸軍乘馬學校條例ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

●勅令第九十一號 (明治三十六年十一月三十日)

陸軍經理學校條例

第一條 陸軍經理學校ハ陸軍主計候補生ヲ生徒トシ陸軍經理部初級士官タルニ必要ナル教育ヲ施シ及陸軍經理部士官中ヨリ選拔セル者ヲ學生トシ高等ノ學術ヲ修メシムル所トス

第二條 生徒及學生ノ教育綱領ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第三條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長

副官

教官

生徒隊長

軍醫

下士、判任文官

陸軍經理學校條例

- 第四條 校長ハ陸軍大臣ニ隸シ校務ヲ總理シ生徒及學生教育ノ責ニ任ス
- 第五條 副官ハ校長ノ命ヲ受ケ庶務ニ服ス
- 第六條 教官ハ校長ノ命ヲ受ケ學術ノ教授ニ任ス
- 第七條 生徒隊長ハ校長ノ命ヲ受ケ生徒ノ訓育ヲ掌ル
- 第八條 軍醫ハ校長ノ命ヲ受ケ衛生事務ニ服ス
- 第九條 學生ハ現役一、二等主計中身體強健勤務精勵操行高尚且將來發達ノ見込アリテ檢定試験ニ合格セル者ヨリ採用ス
- 第十條 陸軍會計監督部長師團並臺灣陸軍經理部長、陸軍經理學校長、陸軍省經理局各課長ハ所轄内ニ於テ適當ト認ムル者ヲ選抜シ學生候補名簿ヲ製シ本人ノ考科表ヲ附シ陸軍省經理局長ニ進達シ經理局長ハ之ヲ審査シ檢定試験ヲ受ケシムヘキ者ノ名簿ヲ製シ陸軍大臣ニ進達ス
- 前項ニ依リ學生候補者ヲ選抜セル各官ハ其ノ選抜ニ關シテハ特ニ其ノ責ニ任ス
- 第十一條 陸軍大臣ハ學生ニ採用スヘキ者ノ學力及其ノ活用ヲ檢定スル爲試験委員

- ヲ設ケ經理局長ヲ委員長ト爲シ檢定試験ヲ行ハシム
- 第十二條 試験委員長ハ試験ノ成績ニ依リ學生ニ採用スヘキ者ヲ選定シ陸軍大臣ニ上申シ陸軍大臣之ヲ裁定シ學生ヲ命ス
- 第十三條 毎年採用スヘキ學生ノ人員、入校期日其ノ他採用ニ關スル規定ハ陸軍大臣之ヲ告達ス
- 第十四條 生徒ノ修學期ハ概一箇年九箇月トシ學生ノ修學期ハ概一箇年トス
- 第十五條 生徒入校中ハ總テ校長ノ管轄ニ屬ス
- 學生ハ原所管ヲ離ルルコトナシト雖願届其ノ他業務上ニ關シテハ總テ校長ノ管理ニ屬ス
- 第十六條 生徒及學生ノ修學ニ所要ノ兵器圖書器具及消耗品ハ貸與又ハ支給スルコトヲ得
- 生徒中各隊ヨリ派遣スル者ハ所屬隊ヨリ其ノ被服ヲ計手ニシテ主計候補生ヲ命セラレタル者ハ所持被服一切ヲ携行セシム

第十七條 生徒及學生ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許サス

第十八條 生徒中左ノ事項ノ一ニ該ル者ハ退校セシム

一 學術ノ修得全カラスシテ卒業ノ目途ナキ者

二 軍紀ヲ紊リ又ハ屢法則ヲ犯ス者

三 品行不正ニシテ改悛ノ目途ナキ者

四 傷痍疾病ニ依リ修學ニ堪ヘサル者

五 卒業試験ニ落第セシ者

第十九條 校長ハ生徒修學期末ニ於テ卒業試験格例ヲ定メ經理局長ノ認可ヲ受ケ卒業試験ヲ施行シ教官及生徒隊長ヲ會シ其ノ成績ヲ審議シ考科及列序ヲ定メ經理局長ノ認可ヲ受ケ及第者ニ卒業證書ヲ附與シ歸隊ヲ命ス

第二十條 校長ハ學生修學期末ニ於テ教官ヲ會シ學生ノ修學結果及伎倆ヲ審査シ伎倆證明書及列序名簿ヲ製シ經理局長ヲ經テ陸軍大臣ニ呈シ其ノ認可ヲ受ケ卒業者ニ卒業證書ヲ附與シ原所管ニ復歸ヲ命ス

第二十一條 學生卒業者中優秀ノ者ハ陸軍大臣之ヲ員外學生ト爲シ帝國大學ノ規程ニ依リ帝國大學ニ入學セシメ必要ナル科學ヲ研究セシムルコトヲ得

第二十二條 校長ハ生徒及學生入校ノ後退校若ハ滯學セシムヘキ必要アリト認めタル者アルトキハ之ヲ陸軍大臣ニ具申シ其ノ裁定ヲ受ケ

第二十三條 滯學ヲ學セラレタル生徒及學生修學ヲ終レハ第十九條及第二十條ニ準シテ取扱フモノトス

第二十四條 校長ハ毎年生徒及學生ニ三週間以内ノ夏期休暇ヲ與フルコトヲ得

附則

第二十五條 當分ノ内本校ニ主計講習生ヲ置ク其ノ學期ハ六箇月以内トス

主計講習生ハ經理局長現役上等計手中ヨリ選抜シ陸軍大臣ノ認可ヲ受ケテ之ヲ命ス

本令第十三條第十五條乃至第十七條及第二十條ノ規定ハ主計講習生ニ之ヲ準用ス
第二十六條 本令ハ明治三十七年四月一日ヨリ施行ス但シ主計講習生ニ係ル事項ハ

發布ノ日ヨリ施行ス

現在ノ監督講習生ハ本令發布ノ日ヲ以テ原所管ニ復歸セシム

監督學生監督候補生及經理部依託學生ハ従前ノ規定ニ依リ經理學校學生トナスコトヲ得

前項ニ依リ學生トナリタル者ノ修學期ハ従前ノ規定ニ依ル

三十三年
十月十四日
第九百八十八號
第七百八十八號
第三十號
二月二十號
看

●勅令第九十四號 (明治二十九年五月九日)

陸軍軍醫學校條例

第一條 陸軍軍醫學校ハ學生ノ練習、生徒ノ敎成衛生部ニ關スル敎科用書ノ編修若クハ撰擇及兵衣、兵食、兵營、兵器等ノ軍陣衛生ニ關スル試驗ヲ行フ所トス

第二條 學生ハ各部隊附ノ衛生部士官ヲ分遣シテ之ニ充テ其特科ヲ練習セシム

第二條ノ二 時宜ニ依リ練習ノ爲ニ等軍醫正ヲ召集スルコトアルヘシ

第三條 生徒ハ醫術開業免狀又ハ藥劑師免狀ヲ所持シ衛生部現役士官ニ出身志願ノ者ヲ選抜シテ採用ス

第四條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長

副官

教官

副監督

陸軍軍醫學校條例

第五條 校長ハ陸軍省醫務局長ニ隸シ校務ヲ掌理シ第一條ノ事項ニ關シテ其責ニ任
ス

第六條 副官ハ校中ノ庶務ヲ掌リ其下ニ陸軍屬ヲ置ク

第七條 教官ハ各専門學科ノ教授ニ任シ兼テ第一條ノ事項ヲ分擔ス

第八條 學生ノ練習期ハ四箇月以内トシ生徒ノ教成期ハ一箇年以内トス

第九條 學生及生徒ノ人員、入校時日並ニ生徒採用ニ關スル規定ハ陸軍大臣之ヲ定
メテ告達ス

第十條 學生分遣ノ告達アレハ軍醫部長ハ入校期十日以前ニ其人名ヲ軍醫學校長ニ通
報スルモノトス

第十一條 學生及生徒ハ校外ニ居住セシメ其科業ニ關シ所要ノ書籍、器具、消耗品ハ
貸與又ハ支給スルコトアルヘシ

第十二條 學生ノ名籍ハ原所管ヲ離ル、コトナシト雖分遣中ノ願届其他業務ニ關ス
ル諸件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第十三條 學生ノ練習ヲ終ルトキハ校長ハ原所管ニ復歸ヲ命シ練習中ノ成績ヲ醫務
局長ニ報告シ且所管ノ軍醫部長ニ之ヲ通知ス

第十四條 生徒ノ教成ヲ終ルトキハ校長ハ卒業試験ヲ行ヒ其成績ニ據リ列序ヲ定メ
考科表ヲ製シテ醫務局長ニ進達シ其認可ヲ請ケ卒業證書ヲ付與ス

第十五條 學生及生徒ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退校スルヲ許サス

第十六條 學生中疾病又ハ其他ノ事故ニ依リ練習ヲ終ルノ目途ナキ者ハ原所管ニ復
歸セシム

第十七條 生徒中左ノ事項ノ一ニ該タル者ハ退校セシム

其一 學力乏クシテ卒業ノ目途ナキ者

其二 軍紀ヲ紊リ又ハ屢法則ヲ犯ス者

其三 品行不正ニシテ改悛ノ目途ナキ者

其四 疾病ニ依リ卒業ノ目途ナキ者

其五 卒業試験ニ落第セシ者

第十八條 第十六條第十七條ニ該タル者アルトキハ校長其事由ヲ悉シ醫務局長ニ上申シ其認可ヲ請ケ復歸若クハ退校ヲ命ス

第十九條 現役豫備役後備役ニ在ル者ニシテ生徒トナリタル者前條ノ處分ヲ受ケタルトキハ原所管ニ復歸セシメ前役ヲ通算入校中ノ日シテ現役豫備役後備役ニ編入ス

●勅令第四百二十號 (明治三十二年十月二十七日)

陸軍獸醫學校條例

三十一年十一月九日勅令第十七號參看

第一條 陸軍獸醫學校ハ學生ニ各専門ノ學術ヲ練習セシメ常ニ獸醫及蹄鐵ニ關スル學術ノ調査研究ヲ爲シ軍馬衛生ニ關スル試験ヲ行ヒ且蹄鐵工長候補者ニ蹄鐵工長タルニ必要ノ教育ヲ爲ス所トス

第二條 學生ハ獸醫部士官及隊附騎兵、砲兵、輜重兵蹄鐵工長、候補者ハ騎兵、野戰砲兵、輜重兵隊ヨリ分遣スル蹄鐵工長候補者ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長

副官

教官

軍醫

主計

三十五年七月八日勅令第一百八十一號參看

下士、判任文官

第四條 削除

第五條 校長ハ陸軍省軍務局長ニ隸シ校務ヲ總理シ學術進步ノ責ニ任ス

第六條 副官ハ校中一般ノ庶務ヲ掌ル

第七條 教官ハ學術ノ教授及其調査研究ヲ分擔シ軍馬ノ衛生ニ關スル試験ニ從事ス

第八條 學期ハ概テ學生士官ニ在テハ五箇月、同下士ニ在テハ三箇月、候補者ニ在テ

ハ九箇月トス

第九條 學生、候補者ノ人員及入校時日ハ陸軍大臣之ヲ告達ス

第十條 學生、候補者分遣ノ告達アレハ師團長ハ學生士官ニ在テハ獸醫部長、同下士

ニ在テハ當該隊長ヲシテ選定セシメ入校期日十日前迄ニ其人名ヲ校長ニ通報セシ

ム

第十一條 學生士官ハ校外ニ同下士及候補者ハ校内ニ居住セシム但營外居住ノ下士

ニ在テハ校外トス

第十二條 學用品ハ學生士官ニ在テハ自辨トシ同下士及候補者ニハ之ヲ貸與又ハ支

給ス但學生士官ト雖モ科業ノ種類ニ由リ之ヲ貸與又ハ支給スルコトアルヘシ

學生下士、候補者ニ在テハ武器被服及裝具ヲ其所屬隊ヨリ携行セシム

第十三條 學生、候補者ノ願届其他業務ニ關スル諸件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第十四條 學生、候補者ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退校スルヲ得ス

第十五條 學生、候補者中左ノ事項ニ該ル者ハ校長其事由ヲ具シ軍務局長ノ認可ヲ

請ケ退校歸隊セシム但候補生徒ニ在テハ豫メ所屬隊長ニ通報シ退校ト同時ニ除隊

ノ處分ニ附スルコトアリ

其一 學術ノ修得全カラス卒業ノ目途ナキ者

其二 軍紀ヲ紊リ又ハ履法則ヲ犯ス者

其三 品行不正ニシテ改悛ノ目途ナキ者

其四 傷痍疾病ニ依リ卒業ノ目途ナキ者

其五 終末試験ニ落第セシ者

候補者ニ在テ傷痍疾病其他ノ事故ニ依リ終末試験ヲ受ケサルモ望ミアル者ハ若干日ノ後特ニ受験セシムルコトヲ得又終末試験ニ落第スルモ尙ホ望ミアル者ハ若干日間學術ノ補修ヲ爲シ卒業セシムルコトヲ得

第十六條 校長ハ學期末ニ於テ學生ニ在テハ教官會議ヲ開キ其成績ヲ審査シテ修得證明書ヲ附與シ候補者ニ在テハ終末試験ヲ施行シ及第者ニハ卒業證書ヲ附與ス學生及候補者修學ヲ終レハ校長ハ原所管ニ復歸ヲ命シ且其成績ヲ軍務局長ニ報告シ所屬長及所管師團獸醫部長ニ通知ス

第十七條 授業上所要ノ馬匹ハ陸軍騎兵實施學校飼養ノモノヲ以テ之ニ充ツ時宜ニ依リ他ノ學校及軍隊飼養ノ馬匹ヲモ之ニ充ツルコトヲ得將校及同相當官飼養ノ馬匹ハ本人ノ希望ニ依リ前項ノ所要ニ供スルコトヲ得

附則

第十八條 現在ノ陸軍獸醫學校生徒ニ關シテハ本令施行後ト雖モ尙ホ從前ノ規定ニ依ル

本令ハ明治三十六年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

●勅令第二百三十四號 (明治三十五年十月二十五日)

陸軍電信教導大隊條例

第一條 陸軍電信教導大隊ハ學生ニ電信通信術ノ教育訓練ヲ爲シ且軍事通信ニ關シ必要ナル事項ヲ調査研究スル所トス

第二條 學生ハ騎兵、要塞砲兵及工兵士官並要塞砲兵及工兵下士兵卒ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 陸軍電信教導大隊ニ左ノ職員ヲ置ク

隊長

副官

大隊附將校

中隊長

軍醫

副監督

陸軍電信教導大隊條例

准士官下士

前項ノ外教官トシテ技師技手ヲ置クコトヲ得

第四條 大隊長ハ工兵監ニ隸シ隊務ヲ總理シ學術進步ノ責ニ任ス

第五條 副官ハ大隊長ノ命ヲ受ケ隊中一般ノ庶務ヲ掌ル

第六條 大隊附將校以下ハ大隊長ノ命ヲ命ケ分擔ノ業務ニ服ス

第七條 大隊長以下ノ服務ニ付テハ軍隊内務ノ規定ヲ準用ス

第八條 學生ノ修學期ハ士官ハ一箇年下士兵卒ハ一箇年半トス但シ場合ニ依リ陸軍大臣教育總監協議ノ上之ヲ伸縮スルコトヲ得

第九條 學生ノ入隊期ハ毎年概テ四月トス

第十條 學生ノ人員及入隊期日ハ時々教育總監ノ移牒ニ依リ陸軍大臣之ヲ告達ス

第十條 前條ノ告達アリタルトキハ師團長ハ當該隊長ヲシテ修學ニ適當ノ者ヲ選定シ入隊期二十日前ニ其ノ人名ヲ電信教導大隊長ニ送付セシムヘシ

第十一條 學生下士ハ現役年限二箇年以上アル者、兵卒ハ前年十二月入營ノ者ヨリ

選拔スヘシ

第十二條 學生士官ハ隊外ニ居住セシメ修學ニ所要ノ兵器、器具及書籍ヲ之ニ貸與若ハ支給スルコトヲ得

第十三條 學生下士兵卒ハ之ヲ中隊ニ編入シ隊内ニ居住セシメ修學ニ所要ノ兵器、器具、書籍及消耗品ヲ之ニ貸與若ハ支給ス學生下士兵卒ノ武器、被服、裝具ハ所屬隊ヨリ之ヲ携行セシム

第十四條 學生ノ願届其ノ他ノ諸件ハ總テ大隊長ノ管理ニ屬ス

第十五條 學生ハ情願ヲ以テ歸隊スルヲ許サス

學生中疾病其ノ他ノ事故ニ依リ學術修得ノ目途ナキ者アルトキハ隊長其ノ事由ヲ具シ工兵監ノ認可ヲ受ケ之ヲ歸隊セシムヘシ

第十六條 隊長ハ修學期末ニ於テ部下將校ヲ集メ會議ヲ開キ學生修學ノ成績ヲ調査シ工兵監ノ認可ヲ受ケ士官ニ在リテハ修得證明書ヲ、下士兵卒ニ在リテハ考科列序表ヲ製シ師團長ヲ經テ本人所屬ノ隊長ニ送付シ下士兵卒ニハ更ニ學術修業證書

ヲ付與シ學生ヲ歸隊セシム

第十七條 大隊附屬將校ハ學生教育上便宜ノ時期ニ於テ之ヲ郵便電信學校ニ派遣シ學術ヲ修習セシムルコトアルヘシ

附則

本條例施行期日ハ陸軍大臣之ヲ定ム

明治三十五年ニ限り學生ノ入隊期ヲ十二月一日トシ其ノ修學期ヲ概テ十箇月トス

三三三
月五五
七七七
令令令
七七七
年
三三三
年
三三三
號號號
三三三
令令令
十十十
三三三
號號號
看
看
看

●勅令第二百二十一號 (明治三十五年十月八日)

陸軍懲治隊條例

第一條 陸軍懲治隊ハ陸軍兵卒ノ屢禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ懲罰ノ處分ヲ受クルモ容易ニ改悛ノ狀ナキ者ヲ收容シテ懲治スル所トス

第二條 懲治隊ハ之ヲ姫路ニ置キ第十師團長之ヲ管轄シ陸軍大臣ノ監督ニ屬ス

第三條 懲治隊ニ左ノ職員ヲ置ク

隊長

隊附士官

軍醫

下士

前項ノ職員ハ豫備役後備役ノ者ヲ以テ充ツルコトヲ得

第四條 懲治隊ニハ隊附トシテ所要ノ兵卒ヲ置ク

第五條 隊附下士ノ約半數及兵卒ハ各師團ヨリ行狀方正勤務勉勵ニシテ能ク其ノ任

ニ堪ユヘキ才幹アル者ヲ選ヒ派遣セシム其ノ任期ハ下士ニ在リテハ一年半以内兵卒ニ在リテハ一年以内トス

第六條 懲治隊ニ收容シテ懲治スル者ハ之ヲ懲治卒ト稱シ原隊ノ定員内トス

第七條 隊長ハ師團長ニ懇シ隊務ヲ掌理シ懲治卒ヲ悔悟改悛セシムルノ責ニ任ス

第八條 隊附士官及軍醫ハ隊長ノ命ヲ受ケ隊務ニ服ス

第九條 下下ハ隊長及隊附士官ノ命ヲ受ケ隊務ニ服ス

第十條 懲治隊ハ適宜之ヲ數班ニ分チ各班ニハ隊附士官以下ヲ配屬シ懲治卒ノ懲治教育等ヲ分掌セシム

第十一條 懲治卒ハ總テ歩兵ノ術科ヲ演習セシム

第十二條 懲治卒ハ衛兵ノ勤務ニ服セシメス

第十三條 懲治卒ニ兵器ヲ携帯セシムルハ演習中必要ノ場合ニ限ル

第十四條 懲治卒ノ衣ハ其ノ袖章ヲ除去ス

第十五條 懲治卒ハ演習時間外ニ於テ軍部ノ勞役ニ就カシムルモノトス但シ時宜ニ

依リ演習時間内ニ於テ之ヲ科スルコトヲ得

勞役ニ就カシメタルトキハ其ノ性質ニ因リ特ニ若干ノ金錢ヲ給スルコトヲ得其ノ金額ハ師團長ノ認可ヲ經テ隊長之ヲ定ム但シ其ノ日額ハ懲治卒日給額ノ半ヲ超過スルコトヲ得ス

第十六條 懲治卒ニ屬スル金錢ハ隊長之ヲ領置シ其ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第十七條 懲治卒ハ外出ヲ許サス但シ特ニ隊長ニ於テ其ノ必要ヲ認ムルトキハ幹部ノ引率ヲ以テ外出セシムルコトヲ得

第十八條 懲治卒ニハ休暇ヲ與ヘス但シ父母ノ疾病危篤若ハ死亡等事情止ムヲ得サル者ニ限リ隊長ハ師團長ノ認可ヲ受ケ特ニ短期ノ休暇ヲ與フルコトヲ得

第十九條 聯(大)隊長ハ部下兵卒中懲治隊ニ於テ懲治スル必要ヲ認メタル者アルトキハ其ノ事由書ヲ具シ順序ヲ經テ所屬師團長ニ上申スヘシ

第二十條 師團長ハ前條ノ上申ヲ審査シ至當ト認メタルトキハ一切ノ書類ニ意見書

ヲ附シ陸軍大臣ニ稟申シ陸軍大臣ヨリ懲治隊ニ編入ノ命令ヲ受クレハ隊長ニ命シ
適宜ノ監視員ヲ附シテ當該兵卒ヲ懲治隊ニ送致セシメ同時ニ陸軍大臣ニ稟申シタ
ル書類ノ寫ヲ懲治隊長ニ送付スヘシ

第二十一條 隊長ハ懲治卒中改悛ノ狀顯著ニシテ懲治隊ニ置クノ必要ヲ認メサル者
アルトキハ之ヲ原隊ニ復歸セシムル爲意見書ニ第二十四條ノ行狀録ノ寫ヲ添ヘ師
團長ヲ經テ陸軍大臣ニ稟申シ陸軍大臣ヨリ復歸ノ命令ヲ受クレハ之ヲ本人ノ所屬
師團長ニ通報シ且本人ヲ原隊ニ復歸セシムヘシ

第二十二條 懲治卒中現役滿期ニ達スル者アリタルトキハ隊長ハ直ニ之ヲ歸郷セシ
メ師團長ヲ經テ陸軍大臣ニ報告シ且本人ノ所屬師團長ニ通報スヘシ
第二十三條 懲治隊ヘ分遣ノ下士兵卒ニ在リテハ武器、被服ヲ懲治卒ニ在リテハ被
服ヲ各所屬隊ヨリ携行セシム

第二十四條 懲治隊ニハ各懲治卒ノ行狀録ヲ備ヘ賞罰及其ノ他ノ狀況ヲ詳録スヘシ
第二十五條 懲治卒ノ取締ニ關スル細則ハ師團長ノ認可ヲ受ケ隊長之ヲ定ムヘシ

附則

本令ハ明治三十六年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

●陸達第五十二號 (明治三十四年八月八日)

陸軍軍人休暇規則

第一條 休暇ハ特ニ規定アルモノノ外之ヲ分テ四トス

一 定例休暇

二 慰勞休暇

三 褒賞休暇

四 請願休暇

第二條 定例休暇ハ毎年夏期七月上旬ヨリニ於テ勤務ニ支障ナキ將校同相當官准士
官及下士ニ之ヲ與フ但シ夏期ニ於テ與フルコトヲ得サルトキハ他ノ時期ニ於テス
ルコトヲ得

定例休暇ノ日數ハ左ノ如シ但シ此ノ日數ハ數回ニ分割スルコトヲ得

一 將校同相當官及准士官 二十一日以内

二 長期下士 十四日以内

三 短期下士

七日以内

定例休暇ハ長官勤務ノ緩急ヲ量リ便宜之ヲ與フヘシ

第三條 慰勞休暇ハ特別ノ任務ニ服シ其ノ勞多キ將校同相當官准士官及下士兵卒ニ長官之ヲ與フ其ノ權限左ノ如シ

一 將官並獨立ノ職ニ在ル上長官ハ三日以内

二 獨立セサル職ニ在ル上長官並獨立ノ職ニ在ル士官ハ二日以内

三 獨立セサル職ニ在ル士官ハ一日

四 將官相當官及將官又ハ上長官ヲ以テ充ツル職ニ在ル者ハ將官ニ、上長官又ハ士官ヲ以テ充ツル職ニ在ル者ハ上長官ニ、士官又ハ准士官ヲ以テ充ツル職ニ在ル者ハ士官ニ同シ

第四條 褒賞休暇ハ在營下士兵卒行狀方正勤務勉勵ニシテ且學術技藝ニ熟達シ他人ノ模範ト爲ル者ハ各團隊長之ヲ與フ其ノ日數ハ一箇月ニ一日トス

第五條 請願休暇ヲ許可スル場合左ノ如シ

一 將校同相當官及准士官ハ歸省轉地療養其ノ他己ムヲ得サル事故アリテ休暇ヲ要スルトキ之ヲ許可ス其ノ日數ハ往復ヲ除キ二十八日以内トス

二 下士兵卒ハ父母重病又ハ死亡ノ爲歸郷ヲ要スルトキ之ヲ許可ス其ノ日數ハ往復ヲ除キ十四日以内トス

三 營外居住下士兵卒ハ第二號ノ外轉地療養ヲ要スルトキ之ヲ許可ス其ノ日數ハ往復ヲ除キ二十八日以内トス

第六條 請願休暇ハ事故ノ連續スル間己ムヲ得サレハ數回之ヲ請願スルコトヲ得

第七條 親補職ニ在ル將官並師團長侍從武官長及東宮武官長ノ請願休暇ハ陸軍大臣ヲ經テ勅許ヲ請ヒ其ノ他ノ軍人ハ所屬長官ニ出願スヘシ但シ轉地療養ノ願書ニハ醫師ノ診斷書ヲ添付スルヲ要ス

第八條 各長官ノ請願休暇許可ノ權限ハ左ノ如シ但シ其ノ日數ハ第五條ノ範圍内ニ於テスルモノトス

一 第三條第一號ノ長官ハ部下ノ軍人ニ二十八日以内ノ休暇ヲ與フルコトヲ得

二 第二條第二號ノ長官ハ部下ノ軍人ニ十四日以内ノ休暇ヲ與フルコトヲ得

第九條 各長官ハ其ノ部下ノ者ヨリ出願シタル請願休暇ノ日數權限外ナルトキハ更ニ其ノ上級ノ長官ノ許可ヲ請フテ之ニ指令スヘシ

第十條 轉職ノ場合ニ在リテ新任地ニ赴任セサル前休暇ヲ爲スヲ要スルトキハ舊所屬長官ニ出願スルコトヲ得

前項ノ休暇ハ舊所屬部隊ヨリ新所屬部隊ニ協議シテ之ヲ許可シ若シ其ノ違ナキトキハ直ニ之ヲ許可シテ新所屬部隊ニ通報スヘシ

第十一條 將校同相當官ハ勤務上妨ケナキ者ニ限り外國旅行ノ爲一年以内ノ休暇ヲ爲スコトヲ得但シ陸軍大臣ヲ經テ勅許ヲ請フモノトス

第十二條 將校同相當官及准士官ハ休暇中旅行ヲ爲サントスルトキハ其ノ行先ヲ所屬長官勅許ヲ要スル者ハ陸軍大臣ニ届出ヘシ

下士兵卒ハ休暇日數二日以上ニ涉ルトキハ行狀方正勤務上ノ結果優秀ナル者ニ限り所屬長官ハ特ニ旅行又ハ外泊ヲ許可スルコトヲ得

第十三條 休暇ハ勤務繁劇ナルトキハ許與セサルコトアルヘシ

臺灣若ハ外國ニ駐在スル者ハ疾病ノ爲轉地療養ヲ要スル時ノ外定例休暇及請願休暇ヲ許與セサルコトアルヘシ

動員部隊ニ屬スル者ニ休暇ヲ許與スル場合ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第十四條 休暇中動員ノ令下リシコトヲ知りタルトキハ直ニ其ノ所屬部隊ニ復歸スヘシ

第十五條 士官候補生及陸軍諸生徒ノ休暇モ特ニ規定アルモノノ外本規則ニ據ル

●陸軍省訓令甲第二號（明治三十四年九月二日）

北海道廳府縣在郷陸軍下士兵卒ハ左ノ場合ニ限リ制服（帶劔ヲ除ク）ヲ著用スルコトヲ得

- 一 滿期歸郷ノトキ
- 二 召集若クハ簡閱點呼ノトキ
- 三 演習及觀兵式參觀ノトキ
- 四 賀儀葬祭ノトキ
- 五 以上掲クルモノ、外在郷軍人ノ資格ヲ表スルトキ

在郷陸軍下士兵卒制服着用シ得ル場合ノ件

ら一終

三十三年
八月勅令
第三百三
十六號參
看

●勅令第二百二十六號 (明治二十八年九月二十日)

第一條 明治二十九年一月一日ヨリ北海道渡島、後志、膽振、石狩ノ四箇國ニ徵兵令ヲ施行ス

第二條 前條ノ徵兵令施行地ニ轉籍移住シ開墾其他一定ノ生業ニ従事スル者ハ轉籍移住ノ後五箇年ニ滿ツル年迄徵集ヲ猶豫ス但轉籍移住ノ後前條ノ區域外ニ轉籍シ更ニ轉籍移住シタル者ハ此限ニアラス

占守島ニ轉籍移住ノ者ニ在リテハ滿三十二歲迄徵集ヲ猶豫ス滿三十二歲ヲ過キ仍
在住スル者ハ國民兵役ニ服セシム

第三條 屯田現役豫備役下士兵卒ノ戶籍内ニ在ル者ハ徵集ヲ免除ス但シ専ラ兵村ノ業務ニ従事セサル者ハ此ノ限ニ在ラス
前項ニ依リ徵集免除ニ屬シタル者五箇年以内ニ其ノ資格ヲ失フ時ハ徵集ニ應セシム

第四條 從來徵兵令ヲ施行セル函館、江差、福山ニハ本令ヲ適用スルノ限ニアラス

北海道ニ徵兵令ヲ施行スルノ件

む一終

三十七年
二月勅令
第四十九
號參看

●勅令第二百五十八號（明治三十年七月二十日）

明治三十一年一月一日ヨリ沖繩縣及東京府管下小笠原島ニ徴兵令ヲ施行ス

小笠原島ニ轉籍移住シ開墾其ノ他一定ノ生業ニ従事スル者ハ轉籍移住ノ後五箇年ニ
滿ツル年迄徴集ヲ猶豫ス但轉籍移住ノ後本島外ニ轉籍シ更ニ轉籍移住シタル者ハ此
ノ限ニアラス

本令ハ明治三十七年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

●陸軍省訓令甲第七號（明治二十二年十一月）

附籍者徵兵適齡届出及應徵方

「附籍者」ニシテ徵兵適齡ノトキハ戸主ト家族ヲ問ハス戸主ヨリ家族ノミ他へ「附籍」ノ場合ニ在テハ本籍戸主ヨリ徵兵令第二十五條ノ届書差出サシメ本籍徵募區ニ於テ徵集ニ應セシム可シ

附籍者徵兵適齡届出及應徵方

六一終

●法律第十三號 (明治三十年三月二十四日)

戰時若ハ事變ニ際シ召集スル在郷ノ陸軍軍人及兵役義務アル者並之ヲ引率スヘキ者ニ支給スヘキ旅費召集諸費ニ付テハ市町村長市ノ區長並戸長及之ニ準スヘキ者ニ現金仕拂ヲ爲サシムル爲現金前渡ノ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ市町村長市ノ區長並戸長及之ニ準スヘキ者ニ對シ會計法第九章ニ定ムル出納官吏ニ關スル規定ヲ適用ス

平時在郷ノ陸軍軍人及兵役義務アル者ヲ召集スル場合ニ在テモ前諸項ヲ適用スルコトヲ得

三十年五月
訓令甲
第五號參
看

●陸軍省訓令甲第一號 (明治三十年二月二十七日)

師團司令部 師團監督部

警視廳 北海道廳 府縣

陸軍召集諸費支出規程ニ依リ支給スル島廳郡區
東京市京都市大阪市ノ區ヲ除ク
 市東京市京都市大阪
 町村吏員及戸長ノ旅費ハ
 明治二十四年内務省訓令第十八號ニ依リ市
東京市京都市大阪
 町村吏員及戸長ニ準ス
 ヘキモノ、旅費ハ同二十三年同省訓令第十八號ニ依リ警部巡查ノ旅費ハ同十九年同
 省令第十一號同令第九條ニ依リ節減ニ依リ支給シ身體檢査ノ爲メ要スル補助醫ハ一
セル地方ニ在テハ其額
 時備トシ一日金貳圓以內適宜ノ給料ヲ支給ス其旅行ヲ要スルトキハ左ノ旅費ヲ給ス

汽車	料	船	料	車	料	馬	料
一哩	ニ	一海里	ニ	一里	ニ	一日	ニ
錢	五	錢	七	錢	五	拾	錢
北海道ハ毎年十一月ヨリ翌年二月迄五箇月間車馬料ニ限リ一里毎ニ 六錢ヲ増給ス							

陸軍召集旅費支出規程ニ依リ支給スル旅費ノ件

わ一終

●勅令第八十二號 (明治三十一年四月二十五日)

第一條 戰時事變ノ際豫備理事ヲ復職セシムルトキハ其ノ復職ヲ陸軍召集條例ノ召集ト同視シ其ノ方法、準備、實施、復舊ニ付テハ陸軍召集條例第一章第二章ノ規定ヲ準用ス

非職理事ハ戰時事變ノ際必要ニ應シ前項ノ例ニ依リ之ヲ現職ニ復セシムルコトヲ得但シ復員令下ルトキハ非職ニ復ス

第二條 非職及豫備理事ノ身分管轄、歸郷及旅行、身上及戶籍上ノ異動、席次、願届書差出方等ニ付テハ陸軍服役條例第七條乃至第十二條第十五條第十八條第二十三條第二十九條乃至第三十七條ノ規定ヲ準用ス

在郷軍人又ハ補充兵ニシテ理事タル者ニ在テハ在郷軍人又ハ補充兵トシテ服役條例ニ依リ願届出ヲ爲スノ外前項ノ願届出ヲ爲スヲ要セス但シ願届書ニハ理事タルノ分限ヲ附記スヘシ

第三條 陸軍召集條例並陸軍服役條例ノ各條項ノ準用ニ關シ理事ハ將校ト現職ハ現

非職及豫備理事ノ戰時復職並在郷ニ關スル件

非職及豫備理事ノ戰時復職並在郷ニ關スル件

く二終

役ト非職ハ休職ト豫備ハ豫備役ト勅任理事ハ將官ト奏任理事ハ其ノ官等ニ應シ上
長官若ハ士官ト同視ス

●陸軍省令第四號 (明治三十四年三月二十日)
陸軍服役條例第六十五條ノ三及陸軍召集條例第八十三條ニ依リ臺灣寄留者演習召
集規程左ノ通定ム

臺灣寄留者演習召集規程

第一條 陸軍服役條例第六十五條ノ三ニ當ル豫備役後備役將校、同相當官、准士官、
下士及歸休兵、豫備役後備役兵卒、第一補充兵ノ演習召集ハ臺灣守備混成旅團長之
ヲ行フ

第二條 混成旅團長ハ召集スヘキ期日兵種階級人員及日數部隊ヲ定メテ少クモ召集
期日前二十日ニ之ヲ各隊長ニ達シ且演習召集名簿^{第一}及演習召集令狀^{第二}ヲ作リ
令狀ハ廳長ニ名簿ハ召集期日前日迄ニ當該部隊長ニ送付スヘシ
混成旅團長ハ其所管内ニ演習召集ヲ爲スヘキ部隊無キ者アルトキハ演習ヲ爲サシ
メントスル部隊長ニ協議シテ召集日時等ヲ定メ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第三條 混成旅團長ハ召集名簿調製後發送迄ノ間ニ異動ヲ生シタルトキハ該名簿事

三十四年
十二月省
令第二十
號參看

故ノ區畫ニ記入シ最後ニ生シタル異動ニシテ必要ナル事項ハ其ノ都度演習ヲ行フ
部隊長ニ通知スヘシ

第四條 廳長令狀ヲ受領シタルトキハ直ニ之ヲ應召員 本人不在ナルトキハ其ノ戸主
又ハ家族中家事ヲ擔當スル者
又ハ本人ニ代ニ交付シ受領證ヲ受取ルヘシ但シ支廳ノ設アル地方ニ在テハ支廳長
ヲシテ交付セシムルコトヲ得

廳長又ハ支廳長ハ應召員中所在不明ニシテ令狀ヲ交付シ能ハサル者アルトキハ其
ノ人名及事由ヲ混成旅團長ニ通知スヘシ

第五條 應召員ニ代リ令狀ヲ受ケタル者ハ直ニ確實迅速ナル方法ヲ以テ召集部隊到
著及到着日時ヲ本人ニ通報シ其ノ令狀ヲ速カニ交付スルノ處置ヲナスヘシ

第六條 應召員演習召集令狀ヲ受領シタルトキハ令狀ヲ携ヘ指定ノ日時ニ召集部隊
ニ到着スヘシ但シ通報ヲ受ケタル者ニシテ令狀ノ交付ヲ受クル爲到着ヲ遅延スル
ノ虞アル場合ニ於テハ令狀ヲ携フルヲ要セス

召集ノ通報ヲ受ケタル應召員ニシテ指定ノ日時ニ到着スルコト能ハサル者ハ所在

地ノ憲兵又ハ警察官吏ニ就キ其ノ通報ヲ受ケタル日時及出發日時ノ證明書ヲ受ケ
到着ノ上召集部隊長ニ届出ヘシ

第七條 應召員中傷痍疾病犯罪等ノ爲應召スルコト能ハサル者ハ應召員又ハ之ニ代
リ令狀ヲ受ケタル者ヨリ到着日時迄ニ混成旅團長ニ宛テタル届書ヲ廳長ヲ經テ差
出スヘシ但シ傷痍疾病ニ係ルトキハ醫師ノ診斷證書犯罪等ニ係ルトキハ憲兵、警
察官吏又ハ司獄官ノ證明書ヲ添フヘシ

傷痍疾病ニ罹リタル者ニシテ醫師ノ所在地ヲ距ル遠隔ノ地ニ在テハ憲兵又ハ警察
官吏ノ證明書ヲ以テ醫師ノ診斷證書ニ代フルコトヲ得

第八條 應召員中父母ノ疾病危篤又ハ死亡ノ爲召集ノ延期ヲ願ハントスル者ハ混成
旅團長ニ宛タル願書ヲ廳長ヲ經テ差出スヘシ但シ父母ノ疾病危篤ノ者ハ醫師ノ診
斷證書ヲ添フヘシ

混成旅團長ハ前項ノ召集延期ヲ許可スルニ方リ其ノ期ノ召集ニ應セシメサル者ノ
指令ニハ令狀ヲ廳長又ハ支廳長ニ返付スヘキコトヲ附記スヘシ

第九條 第七條第八條ニ依リ應召スルコト能ハサル者其ノ事故止ミタルトキハ直ニ
廳長又ハ支廳長ニ届出テ指揮ヲ受クヘシ

廳長又ハ支廳長ハ前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ召集期日ノ翌日ヨリ計算シ十日以
内ニ到着シ得ヘキ者ニハ其ノ令狀ノ餘白ニ事由及出發日時ヲ記シ出發セシメ十日
以内ニ到着シ能ハサル者ニハ其ノ出發ヲ差止メ令狀ヲ返付セシメ其ノ旨ヲ召集部
隊長ニ通知スヘシ

第十條 應召員ハ途中ニ於テ傷痍疾病ニ罹リ到着ヲ遅延スルノ虞アルトキハ直ニ醫
師ノ診斷證書ヲ添ヘ召集部隊長ニ届出テ出發スルコトヲ得ルニ至リタルトキハ速
ニ到着ノ上召集部隊長ニ届出ツヘシ
傷痍疾病ノ外止ムヲ得サル事故ニ因リ到着ヲ遅延スルノ虞アルトキハ其ノ地ノ廳
長、支廳長、憲兵、警察官吏、船長又ハ驛長ノ證明書ヲ受ケ到着ノ上召集部隊長ニ届
出ツヘシ

第十一條 混成旅團長ハ應召員中傷痍疾病其ノ他ノ事故ニ因リ到着ヲ遅延セシ者ア

リタルトキ必要ト認ムレハ適宜召集日數ヲ増加スルコトヲ得

第十二條 混成旅團長ハ進級ノ爲又ハ事故ノ爲召集日數ヲ増加スヘキ者アルトキハ
召集部隊長ヲシテ之ヲ各自ニ達セシムヘシ

第十三條 召集部隊長ハ應召員到着セハ直ニ身體檢査ヲ行ヒ召集名簿ニ應召不應召
其ノ他ノ事故ヲ記シ第六條第十條ノ届書ヲ添ヘ演習終リシ後七日以内ニ混成旅團
長ニ差出スヘシ

傷痍疾病ニ因リ演習ニ堪ヘサル者ハ軍隊手牒ニ其ノ旨ヲ記シ召集ヲ解除スヘシ但
シ演習終リシ後七日以内ニ其ノ診斷證書
常備後備役、補充兵役又ハ
兵役ニ堪ヘサル者ニ限ルヲ混成旅團長
ニ差出スモノトス

第十四條 召集部隊長ハ應召員中傷痍疾病ニ罹リ第九條ノ期日内ニ到着シ能ハサル
者ト認メタルトキハ之ニ歸郷ヲ命シ其ノ旨ヲ混成旅團長ニ報告スヘシ

第十五條 召集部隊長ハ召集中ノ者ニシテ父母ノ疾病危篤死亡其ノ他止ムヲ得サル
事故ノ爲休暇ヲ願出ル者ニ許可ヲ與フルニ方リ其ノ休暇中ニ召集解除ヲ爲スヘキ

者ハ直ニ召集ヲ解除スヘシ

第十六條 召集部隊長ハ演習ヲ終リタルトキハ軍隊手牒ニ所要ノ記入ヲナシ在ルヤ否ヲ點檢シテ召集ヲ解除スヘシ

第十七條 演習中本籍地ニ於テ充員召集、補充召集ノ通報ヲ受ケタル者アルトキハ本人ヨリ部隊長ニ届出テ當該部隊長ハ直ニ其ノ召集ヲ解除スヘシ

第十八條 混成旅團長ハ第十三條第二項ニ當ル者及演習召集ノ結果ヲ其ノ本籍地聯隊區司令官ニ通達スヘシ

第十九條 廳長ハ令狀ヲ交付シタル者ノ人名其ノ召集部隊及日數第七條乃至第九條ニ依リ應召スルコト能ハサル者ノ人名寄留地及事由ヲ憲兵又ハ警察官吏ニ通報スヘシ

第二十條 廳長ハ令狀ノ受領證ヲ編綴シ召集期日後二十日間保管スヘシ

第二十一條 廳長ハ交付シ能ハサリシ令狀及應召セサル爲返付ヲ受ケタル令狀アルトキハ召集期日後三十日以内ニ混成旅團長ニ送付スヘシ

第二十二條 憲兵及警察官吏ハ召集ニ方リ違令ノ者無カラシムル爲相當ノ處置ヲ爲シ必要ニ應シ其ノ景況ヲ混成旅團長ニ報告スヘシ

第二十三條 召集ニ應スル爲旅行ヲ爲ス者ニハ其ノ出發前ニ於テ現住地ヨリ召集地迄ノ里程ニ應スル旅費ヲ出納官吏現金前渡ヲ受クル者ヨリ支給ス但シ一日行程以内ヲ旅行シタル後之ヲ給スルコトヲ得

第二十四條 召集解除ヲ命セラレタル者ノ寄留地歸著迄ノ旅費ハ召集部隊ヨリ支給スルモノトス但シ召集中住居ヲ轉シタル者ト雖應召前ノ現住地迄ノ里程ニ應シ旅費ヲ給ス

第二十五條 演習召集旅費ノ仕拂命令官ハ臺灣陸軍經理部長トス

第二十六條 演習召集旅費ノ出納官吏ハ諸部團隊ノ官吏及廳長トス但シ混成旅團長必要ニ應シ支廳長ニ分任出納官吏ノ職務ヲ執ラシメ又ハ警察官吏ニ出納官吏若ハ分任出納官吏ノ職務ヲ執ラシムルコトヲ得

前項出納官吏分任出納官吏ノ任命ハ廳長ヲ除クノ外ハ諸部團隊長又ハ臺灣總督ニ

於テスヘシ

第二十七條 諸部團隊長、臺灣總督ハ演習召集旅費前渡ヲ受クヘキ官吏及公吏ノ官
(職)氏名ヲ混成旅團長ニ通知スヘシ混成旅團長ハ之ヲ仕拂命令官ニ通知シ大藏省
ニ報告スヘシ爾後異動アルトキ亦同シ

第二十八條 演習召集旅費ハ經常費ニ屬ス其ノ旅費額ハ陸軍旅費規則第二十七條ニ
依リ諸部團隊ニ於テ計算シ普通ノ手續ヲ以テ仕拂命令官ニ請求スルモノトス

第二十九條 演習召集旅費支出ニ關シ前諸條ニ規定スルモノ、外ハ陸軍召集諸費支
出規程第八條第三十條第三十一條第三十六條第四十條及第四十一條ノ規定ニ準據
シ取扱フヘシ但シ該規程第八條ノ檢定書ハ混成旅團長ニ提出シ同第三十六條ノ仕
拂計算書及證憑書類ハ混成旅團司令部ヲ經由スヘシ

第三十條 正當ノ事由ナクシテ第五條第七條及第九條ノ規定ニ違背シタル者ハ五十
錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

附則

第三十一條 輜重兵科ノ豫備役後備役將校、准士官、下士及歸休兵、豫備役後備役兵
卒、第一補充兵ノ演習召集ハ當分之ヲ行ハス

第三十二條 本規程ハ明治三十四年四月一日ヨリ施行ス

第一様式

何部隊演習召集名簿				明治何年何月何日調 臺灣守備混成何旅團司令部			
住	所	兵役年級	兵種官等	氏名	應事	否	故
何地寄留 本籍何聯隊區何郡町村	豫、二步、大尉				何月何日疾病ニ因 リ不應ヲ届出ツ		
何々	後、二步、軍				疾病ニ因リ應召即 日歸郷ヲ命ス		
何々	一補、三步、一				何		

表 面

(尺曲)分五寸七

受領證

一何月何日ヨリ何日間何部隊へ召集ノ演習召集令狀

右受領ス

明治 年 月 日 午後 時 分

寄留地

兵役官(兵種等級)(第一補充兵何兵)何

某印

本人ニ代リ受領シタル者ハ左ニ署名捺印ヲ爲スヘシ

臺灣守備混成何旅團司令部

御中

演習召集令狀

寄留地

兵役官(兵種等級)(第一補充兵何兵)何 某

(尺曲)寸四

右演習ノ爲メ何日間何部隊へ召集ヲ告ス明治何

年何月何日午 何時何地ニ到着シ此ノ令狀ヲ以
テ當該部隊ニ届出ツヘシ

臺灣守備混成何旅團司令部

四寸五分(曲尺)

五 寸(曲尺)

一 到着地ハ何地何所ト詳細ニ記載スヘシ

召集旅費金何圓何拾錢

右何所ニ於テ支給ス此ノ令狀ヲ係員ニ示シテ受領スヘシ代人ヲシ
テ受領セシムルトキ爲シ得レハ其ノ委任狀中ニ召集部隊及到着地
ヲ記入スヘシ

裏 面

混成旅團司令部ニ於テハ應召員及應召員ニ代リ令狀ヲ受領スヘキ者ノ心得ト爲ルヘキ事項ヲ記入スルコトヲ得

●陸軍省訓令甲第四號 (明治三十年四月一日)

師 團 司 令 部

北海道廳 府縣 沖繩縣
ヲ除ク

明治二十六年陸軍省訓令甲第六號ヲ廢シ更ニ現役砲兵輸卒及現役輜重輸卒ニシテ疾病犯罪等ノ爲メ入營シ難キ者ノ取扱左ノ通定ム

- 一 疾病犯罪等ノ爲メ入營シ難キ者ハ漸次次期ニ繰下ケ入營セシメ其終期ニ於テ入營シ難キ者ハ次年徵募ノ現役兵同時ニ入營セシム
- 二 其事故繼續シ若クハ再發シ次年第二期仙臺弘前札幌金澤ノ各衛戍地ニ在テハ第一期以後ニ至ルモ仍ホ入營シ難キ者アルトキハ徵兵検査ノ際身體検査ヲ爲シ徵集ニ適スル者ハ前項ノ例ニ依リ取扱ヒ其徵集ニ適セサル者ハ徵集免除若クハ兵役免除ノ處分ヲ爲ス
- 三 入營ヲ次年ニ繰下ケタル爲メ所要人員超過スルトキハ抽籤番號ノ最モ高キ者ヨリ漸次次期ニ繰下ケ終期ニ於テ仍ホ要員ニ超過スルトキハ次年ニ繰下ケヘシ

現役砲兵輸卒及現役輜重輸卒ニシテ疾病犯罪等ノ爲メ入營シ難キ者ノ取扱方 ま一終

●陸達第五百一十一號 (明治三十年十一月十六日)

陸軍軍馬撰定規則左ノ通定ム

但明治十九年達乙第十一號軍用乘馬資格ヲ廢止ス

陸軍軍馬撰定規則

第一條 此ノ規則ハ民有ノ馬匹幼馬ハ除クヲ購買徵發又ハ檢査スルニ方リ該馬匹ノ撰定

上據ルヘキ標準ヲ概示スルモノトス

第二條 軍馬ヲ用役ノ如何ニ撰定ノ標準ハ左ノ如シ

- 一 性質溫順伶俐ニシテアテモ當物良ク惡癖ナキコト
- 二 強健ニシテ持久力アルコト
- 三 眼ニ故障ナキコト
- 四 前膊臀及脛ノ筋肉良ク發育スルコト
- 五 關節大ヒニシテ力アルコト
- 六 蹄ノ質堅牢ナルコト

陸軍軍馬撰定規則

- 七 四肢ノ鍾直正キコト
- 八 年齢概テ五歳以上タルコト
- 第三條 騎兵乘馬ニ撰定ノ標準ハ第二條ノ外左ノ如シ
 - 一 悍威アルコト
 - 二 頭輕クシテ其ノ位置正ク眼大ヒニ耳ミミ縮良シヅムキコト
 - 三 頸長クシテ力アリ其ノ傾斜宜ヲ得ルコト
 - 四 鬃甲良ク發育シ適度ニ延ルコト
 - 五 肩長クシテ斜ニ其ノ運動自由ナルコト
 - 六 背直ク廣クシテ力アルコト
 - 七 腰短クシテ其ノ前後ノ結合良キコト
 - 八 尻廣ク長クシテ力アリ僅ニ傾斜スルコト
 - 九 尾ノ附高キコト
 - 十 胸前良ク發育シ肋豐圓ナルコト

- 十一 廉充實スルコト
- 十二 四肢高ニ過キサルコト
- 十三 臆鮮明ニシテ堅牢ナルコト
- 十四 繫長ニ過キサルコト
- 十五 肉ニク縮良シヅムキコト
- 十六 步輕ク廣クシテ正キコト
- 十七 體尺約テ四尺八寸以上五尺二寸以下タルコト
- 第四條 砲兵乘馬ニ撰定ノ標準ハ砲兵輓馬ニ同シ
- 第五條 輜重乘馬及憲兵乘馬ニ撰定ノ標準ハ概テ騎兵乘馬ニ準ス但體尺ハ約テ四尺七寸以上トス
- 第六條 砲兵輓馬ニ撰定ノ標準ハ第二條ノ外左ノ如シ
 - 一 稍悍威アルコト
 - 二 背稍長クシテ力アルコト

- 三 腰廣クシテカアルコト
- 四 尻廣ク長クシテカアルコト
- 五 胸前廣キコト
- 六 步廣クシテ正キコト
- 七 體尺約子四尺八寸以上五尺四寸以下タルコト
- 第七條 輜重鞍馬ニ撰定ノ標準ハ概子砲兵鞍馬ニ準ス但體尺ハ約子四尺七寸以上九寸以下トス
- 第八條 砲兵駄馬ニ撰定ノ標準ハ第二條ノ外左ノ如シ
 - 一 體ノ幅廣キコト
 - 二 鬚甲豐厚ニシテ突起セサルコト
 - 三 背短クシテカアリ背線突起セサルコト
 - 四 步確實ナルコト
 - 五 體尺約子四尺六寸以上八寸以下タルコト

- 第九條 輜重駄馬ニ撰定ノ標準ハ概子砲兵駄馬ニ準ス
- 第十條 將校乘馬相當官用ヲモ含ムニハ騎兵乘馬ニ撰定ノ標準體尺ノ上限ハ除クトシテ示シタル條件ヲ備ヘ且品位優等ノ馬匹ヲ以テ之レニ充ツ但職務ニ由テハ輜重乘馬及憲兵乘馬ニ撰定ノ標準トシテ示シタル條件ヲ備ル馬匹中品位優等ノモノヲ以テ之ニ充ルモ妨ナシトス
- 第十一條 毛色ノ撰定ハ左ニ據ルヘシ
 - 一 騎兵隊ノ爲メニハ鹿毛栗毛及青毛ノ三種トスルコト
 - 二 砲兵隊ノ爲メニハ白ク目立易キ毛ヲ除クコト
- 第十二條 第二條以下各條ニ掲ル標準ハ購買徵發又ハ檢査ヲ命スル者場合ニ由リ適宜之レヲ斟酌スルコトヲ得

三十一年一月三日陸達第一
三十一年三月八日陸達第三
三十一年三月十一日陸達第一
三十一年三月十六日陸達第一
三十一年三月十八日陸達第二
三十一年三月二十七日陸達第六
三十一年三月三十日陸達第六
三十一年三月三十一日陸達第六

●陸達第十四號 (明治二十九年二月十七日)

馬匹取扱規則

第一章 總則

第一條 本規則ハ馬匹將校飼養ノ馬匹ハ除クノ保管出納及檢査ノ方法ヲ定ム

第二章 保管及出納

第二條 馬匹ハ憲兵隊、騎兵隊、砲兵隊、要塞砲兵甲大隊及對馬警備隊砲兵隊ハ除ク、輜重兵隊、軍馬補充部、支部、大學校、砲工學校、士官學校、中央幼年學校、騎兵實施學校、野戰砲兵射擊學校及要塞砲兵射擊學校ニ於テ飼養シ其保管及出納ハ當該部隊長各其責ニ任ス

第三條 削除

第四條 馬匹ノ廢役處分ハ所管長官ノ認可ヲ經テ之ヲ行フ

第五條 第二條ノ部隊長憲兵隊長及軍馬補充部支部長ハ除クハ毎年馬匹補充期前ニ於テ滿役又ハ廢役

ニ屬スル馬匹ヲ調査シ所管長官ニ報告スヘシ

所管長官ハ前項ノ滿役馬及廢役馬ヲ部下軍隊學校ノ在役馬ニ比較シ優ルモノアル

トキハ彼此交換セシメ最劣等ノ馬匹ヲ撰定シ當該保管者ヲシテ此カ處分ヲ爲サシムヘシ但シ軍馬補充及育成規則第三條ニ依リ憲兵隊ニ交付スヘキ馬匹ハ此限ニアラス

第三章 檢査

第六條 馬匹ノ檢査ハ別テ定期及臨時ノ二トシ定期檢査ハ其員數及飼養ニ關シ臨時檢査ハ其保存ニ關シ之ヲ行フ

第七條 馬匹ノ定期檢査ハ軍隊及軍馬補充部支部ニ於テ飼養スルモノニ在テハ所管長官、學校ニ於テ飼養スルモノニ在テハ軍馬補充部本部長毎年一回之ヲ行ヒ臨時檢査ハ陸軍大臣臨時檢査官ヲ命シ全國若クハ其一部ニ之ヲ行ハシム但憲兵司令官ハ憲兵隊飼養馬匹ノ定期檢査ハ該隊長ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

第八條 定期若クハ臨時檢査終レハ檢査官ハ其檢査ノ成績ヲ陸軍大臣ニ報告ス但憲兵司令官第七條ノ但書ニ據リ憲兵隊長ヲシテ檢査ヲ行ハシムルトキト雖トモ其檢査ノ成績ハ同司令官ヨリ報告スルモノトス

二十九年
十二月陸
達第七百七
十七號參
看

●陸達第七十五號 (明治二十九年十二月一日)

陸軍馬匹名簿規則別冊ノ通定ム

(別冊)

陸軍馬匹名簿規則

第一條 馬匹名簿ハ分テ左ノ四種トス

一 甲號馬匹名簿(第一號書式)

此ノ名簿ハ軍馬補充部本部ヨリ同支部へ交付スル馬匹ノ名簿トス
軍馬補充部甲支部ヨリ乙支部へ馬匹ヲ交付スルトキモ亦此ノ名簿ヲ用ユ但此ノ場合ニ於テハ名簿ノ寫ヲ以テ本名簿ニ代フルモノトス

二 乙號馬匹名簿(第二號書式)

此ノ名簿ハ軍馬補充部支部ヨリ軍隊學校或ハ甲ノ軍隊學校ヨリ乙ノ軍隊學校へ馬匹ヲ交付スルトキニ用フル名簿トス
軍馬補充部支部並軍隊學校ヨリ將校同相當官へ馬匹ヲ交付スルトキモ亦此

ノ名簿ヲ用ユ

三 拂下馬匹名簿(第三號書式)

此ノ名簿ハ陸軍馬匹拂下規則ニ依テ拂下ケタル馬匹ノ名簿トス

四 將校馬匹名簿(第四號書式)

此ノ名簿ハ陸軍乘馬飼養條例ニ依テ飼養スル馬匹ノ名簿トス

第二條 馬匹名簿ノ調製區分ハ左ノ如シ

- 一 甲號馬匹名簿 軍馬補充部本部
- 二 乙號馬匹名簿 軍馬補充部支部
- 三 拂下馬匹名簿 軍馬補充部本部
- 四 將校馬匹名簿 乘馬委員

第三條 馬匹名簿ハ其ノ馬匹ヲ飼養スル軍隊官衙學校並將校同相當官之レヲ保管スルモノトス

第四條 馬匹名簿 將校馬匹名簿中拂下ニアラザル自馬ニ屬スルモノハ除クニ其ノ馬匹ノ履歷トシテ軍馬補充部

軍隊學校若ハ乘馬委員ニ於テ記入スヘキ事項 其ノ年月日共ハ左ノ如シ

- 一 交付
 - 二 陸軍乘馬飼養條例施行規則ニ依ル下付
 - 三 斃死及其ノ事由
 - 四 讓渡及其ノ事由
 - 五 陸軍馬匹拂下規則ニ依ル隨意讓渡ノ承認及其ノ事由
 - 六 去勢
 - 七 體尺ノ伸長度 軍隊學校ノ馬匹ニ在テハ其ノ受領ノ月ヨリ算シテ十二箇月毎トニ檢定シタルモノ
 - 八 名稱ノ變更
 - 九 其ノ他必要ノ事項
- 第五條 馬匹名簿 甲號及將校馬匹名簿ハ除ク返付手續ハ左ノ如シ
- 一 軍馬補充部支部ヨリ軍隊學校へ交付シタル乙號馬匹名簿ハ其ノ馬匹斃死シ若ハ之レヲ讓渡シタルトキ同支部へ返付ス

- 二 軍馬補充部支部並軍隊學校ヨリ乘馬委員並將校同相當官へ交付シタル乙號馬匹名簿ハ乘馬委員並將校同相當官ヨリ陸軍馬匹拂下規則ニ依テ拂下馬匹名簿ノ下付ヲ軍馬補充部本部へ請求スルト同時ニ同本部へ返付ス乘馬委員並將校同相當官ヨリ軍馬補充部本部へ返付シタル乙號馬匹名簿ハ本條第三項ニ依テ其ノ馬匹ノ拂下馬匹名簿ヲ返付シ來ルトキ同本部ニ於テ其ノ拂下馬匹名簿ニ記載ノ履歷ヲ轉載シタル上同支部へ返付ス
- 三 拂下馬匹名簿ハ其ノ馬匹斃死シ若ハ之レヲ下付シ又ハ之レヲ乘馬本分者外ニ讓渡シタルトキ軍馬補充部本部へ返付ス
- 四 拂下馬匹名簿ヲ有スル將校同相當官現役ヲ退キ若ハ免官トナリ又ハ死亡シタルトキハ其ノ陸軍馬匹拂下規則ニ依テ乘馬委員ニ差出シ置キタル同名稱ノ寫ヲ同委員ヨリ軍馬補充部本部へ返付ス
- 第六條 馬匹名簿將校馬匹名簿ハ除クノ保存年限ハ左ノ如シ但軍馬補充部本部長ハ所要ニ應シテ尙ホ之レヲ延長スルコトヲ得

- 一 甲號馬匹名簿ハ其ノ馬匹幼馬ナルトキハ調製ノ年ヨリ算シテ二十箇年牡馬ナルトキハ十五箇年
- 二 乙號馬匹名簿ハ調製ノ年ヨリ算シテ二十箇年
- 三 拂下馬匹名簿ハ其ノ馬匹ノ乙號名簿調製ノ年ヨリ算シテ二十箇年
- 第七條 馬匹將校馬匹中拂下馬匹ニ屬セサルモノハ除クノ符號番號及名稱ハ軍馬補充部本部之レヲ定ム
- 第八條 軍馬補充部支部保管ノ馬匹ハ所要ニ應シテ符號及番號ヲ蹄ニ絡印スルコトヲ得
- 第九條 轉職、休職若ハ停職ニ由テ乘馬本分ヲ離レタル者ト雖モ尙ホ拂下馬匹ヲ所有スル者ニハ本規則第三條、第四條及第五條第二項第三項第四項ヲ適用ス

第一號書式

甲號馬匹名簿	軍馬補充部本部
用 役	體 尺

月 日年	履 歷	備 考	官買購	毛 色	年 齡	購買名名稱	購買番號	名 稱	番 號	性
			主 賣	代 價	購 買 地	購 買 年 月 日	別 徵	產 地	馬 種	
月 日年										
月 日年										

三十三年
六月陸達
第六十六
號參看

月 日年	月 日年
月 日年	月 日年

注意

- 一 用紙ハ美濃紙トス
- 二 輪廓ハ縦八寸横五寸四分トス
- 三 年齢及體尺ハ購買ノ際鑑査シタルモノヲ記ルスヘシ
- 四 馬種ノ區畫ニ於テ良馬ニ在テハ成ルヘク其ノ父母ニ關スル事項ヲモ記ルスヘシ
- 五 産地及購買地ヲ記ルスニハ國郡市町村等ヲ詳記スヘシ但著名ノ地ニ在テハ詳記スルニ及ハス
- 六 此ノ書式ヲ借上馬匹名簿ニ適用スルトキハ購買年月日ヲ借上年月日ニ購買地ヲ借上地ニ代價ヲ評價ニ購買官ヲ借上委員ニ賣主ヲ持主ニ改ムヘシ徵發馬匹名簿ニ適用スルトキモ亦借上馬匹名簿ニ適用スルトキノ

第二號書式

例ニ據ルヘシ

乙號馬匹名簿											
軍馬補充部某支部					軍馬補充部本部						
用役		性		番號		名稱		年齡			
馬種		產地		別徵		購買年月日		購買官			
履		歷		月		日		年			
月	日	年	月	日	年	月	日	年	月	日	年

月	日	年	月	日	年
月	日	年	月	日	年

注意

- 一 用紙ハ美濃紙トス
- 二 輪廓ハ縱八寸横五寸四分トス
- 三 用役以下總テ甲號馬匹名簿ニ記載セラレタルモノヲ轉載スヘシ但年齡竝體尺ハ配賦當時ノ實際ヲ記載スヘシ

第三號書式

拂下馬匹名簿					
軍馬補充部本部			軍馬補充部本部		
名稱		番號		性	
馬種		產地		別徵	
月	日	年	月	日	年
月	日	年	月	日	年

陸軍馬匹名簿規則

一一〇

乙號名簿番號	購買年月日	年 齡	拂下部隊	毛 色	拂下請願者	體 尺	履 歷	月 日 年	月 日 年	月 日 年

注 意

- 一 用紙ハ美濃紙トス
- 二 輪廓ハ縱八寸横五寸四分トス
- 三 性、名稱、年齡、毛色、體尺、種族、產地、別徵及購買年月日ハ乙號馬匹名

簿ニ記載ノモノヲ轉載スヘシ

第四號書式

將校馬匹名簿							某乘馬委員									
官 姓 名	正 副	番 號	名 稱	年 齡	毛 色	體 尺	自馬率入	年 月 日	所 屬	馬 種	產 地	別 徵	購 買 年 月 日	購 買 地	代 價	保 續 期 限

陸軍馬匹名簿規則

一一一

馬匹支給 年月日		自馬トナリ タル年月日		履		歴		期	繼
月	日	年	月	日	年	月	日	年	年
日	年	月	日	年	月	日	年	月	日
日	年	月	日	年	月	日	年	月	日

注意

- 一 用紙ハ美濃紙トス
- 二 輪廓ハ縦八寸横五寸四分トス
- 三 所屬ノ區畫ハ飼養者所屬ノ部隊ヲ記ルス所トス
- 四 正副ノ區畫ハ正馬若ハ副馬タルコトヲ記ルス所トス
- 五 年齢及體尺ハ購買ノ際鑑査シタルモノヲ記ルスヘシ但拂下馬匹ニ在テ

- 六 ハ其ノ名簿ニ記載ノモノヲ轉載スルモノトス
馬種ノ區畫ニ於テ良馬ニ在テハ成ルヘク其ノ父母ニ關スル事項ヲモ記
ルスヘシ
- 七 産地及購買地ヲ記ルスニハ道府縣郡市町村ヲ詳記スヘシ但著名ノ地ニ
在テハ詳記スルニ及ハス
- 八 自馬トナリタル年月日ノ區畫ハ支給馬匹ノ自馬トナリタル年月日ヲ記
ルス所トス
- 九 保續及繼續期限ヲ記ルスニハ何年何月ヨリ何年何月マテ何箇年何箇月
ト記ルスヘシ
- 十 繼續期限ノ區畫ハ尙ホ保續シ得ヘキ年月數ヲ記ルス所トス
- 十一 拂下馬匹ナルトキハ何年何月何部隊ヨリ拂下ケタル旨ヲ履歷ニ記ル
スヘシ

三十三年
八月省令
第二十四
號參看

●陸軍省令第二十二號 (明治三十年八月十七日)

陸軍埋葬規則左ノ通定ム

但陸軍隊附准士官下士卒埋葬規則並戰時陸軍埋葬規則ヲ廢止ス

陸軍埋葬規則

第一條 在隊在職陸軍軍人軍屬並在郷軍人召集中死亡シタルモノ、埋葬ハ本規則ノ

定ムル所ニ據ル但海外ニ鎮戍スル者ヲ除クノ外將校准士官特務曹長並營外居住ノ

下士卒職工及軍屬ハ特ニ規定ナキモノハ本規則ヲ適用セス

第二條 本規則ニ於テ將校以下ノ爲メニ定メタルモノハ同相當官以下ニ適用ス

第三條 見習士官、見習醫官、見習藥劑官、見習獸醫、見習軍吏其他ノ將校生徒ハ下士

ニ下士生徒及雜卒ハ兵卒ニ軍屬タル高等官ハ將校ニ判任官ハ准士官若クハ下士ニ

其他ハ兵卒ニ準ス其階級ニ數等アルモノハ各其相當階級ニ據ル

第四條 死體ハ陸軍埋葬地ニ葬臺灣ニ在テ死亡セシ者ルヘシ若シ遺言シテ陸軍埋葬

地外ニ葬ルヲ願ヒ又ハ親族ヨリ引受ヲ願フトキハ之ヲ許スコトヲ得

陸軍埋葬規則

三十三年十月省令
第三十一號
三十七年七月省令
第二十號
參看

第五條 死體ハ火葬スルコトヲ得又海上ニ在テハ水葬スルコトアルヘシ但火葬又ハ

水葬シタルトキハ必ス遺骨或ハ遺髪ヲ採收シ前條ニ據リ埋葬スルモノトス

臺灣ニ在リテ死亡シ若ハ傳染病ニ罹リ死亡シタル者ノ遺體ハ火葬スルヲ例トス

第六條 凡ソ軍人軍屬戰地ニ於テ死亡シ又ハ戰地ニ於テ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹

リ之ニ起因シ戰地外ニ於テ死亡シタル者ハ陸軍埋葬地ニ葬ルヲ例トス但シ親族ヨ

リ遺體ノ下付ヲ願フトキハ之ヲ許スコトヲ得

將校以下前項ニ據リ死亡シタル者ニシテ陸軍埋葬地ニ葬ルヲ得サルトキハ一時假

葬シ又ハ合葬スルコトヲ得但後必ス陸軍埋葬地ニ改葬スルモノトス其手續ハ總テ

本規則ニ據ル

第七條 墓地ハ將校准士官下士兵卒毎ニ區畫ヲ定ムルモノトス但各墳墓ノ坪數ハ第

一表ニ據ル

第八條 墳墓ニハ墓標ヲ建設ス其寸法ハ第二表ニ據ル但假葬ノ場合及臺灣ニ在リテ

ハ適宜ニ其尺度形狀ヲ變スルコトヲ得

第九條 墓標ハ其表面ニ官位勳功爵氏名墓ト記シ左側面ニ死亡ノ年月日ヲ記スヘシ

但其後面竝右側面ニハ所要ノ碑文ヲ記スルコトヲ得

第十條 陸軍埋葬地ニ葬リタルモノト雖モ親族ヨリ改葬ヲ願フトキハ之ヲ許スコト

アルヘシ但傳染病ニ罹リ死亡シタル者ニ在テハ傳染病豫防法ニ據ル

第十一條 將校准士官ヲ除クノ外埋葬後十年ヲ經タルモノハ之ヲ合葬スルコトヲ得

前項ニ據リ合葬シタルトキハ在來ノ墓標ヲ合葬地ニ竝列ス但合葬ノ爲メ更ニ墓標

ノ建設ヲ要スルモノハ表面ニ陸軍軍人(軍屬)合葬之墓ト記シ右側ヨリ背面ニ連テ

官位勳功爵氏名ヲ列記シ其各氏名ノ左傍ニ死亡ノ年月日ヲ記シ左側面ニハ何年何

月何日建ト記スルモノトス

臺灣ニ在リテハ適宜前二項ノ規定ヲ變スルコトヲ得

第十二條 前條ニ據リ合葬スル者ノ墓標ハ合葬人員ノ多少ニ據リ適宜ニ之ヲ定ムヘ

シト雖モ其高サハ第八條ノ規定ニ據ル

第十三條 陸軍埋葬地ノ設ケナキ地ニ在テハ近傍適宜ノ埋葬地ニ假葬シ若クハ火葬トナシ其遺骨或ハ遺髪ヲ收拾シテ後陸軍埋葬地ニ葬ルモノトス

第十四條 前條ニ據リ埋葬シタル者ノ墓標ハ第八條ニ據ル

第十五條 歸省中死亡シタル者ハ埋葬料ヲ其親族ニ下附シテ埋葬セシム

第十六條 陸軍埋葬地ニハ親族故舊ヨリ燈籠水鉢等ノ建設ヲ願フモ之ヲ許サス但寺院等一般ノ墓地ニ埋葬シタルモノハ此限ニアラス

第十七條 死者ヲ歛スルトキハ帽衣袴靴ヲ著セシムルモノトス其親族ノ願ニ據リ死體ヲ引渡ストキハ定則ノ如ク之ヲ歛シ白布ヲ以テ棺上ヲ覆フヘシ其棺柩及白布ノ費用ハ埋葬料ノ内ヨリ支辨シ其殘金ハ親族ニ下附ス

第十八條 死亡シタル者アルトキハ本人所屬部隊校團等ヨリ其病狀並死亡時刻ヲ勉メテ急速ニ親族ヘ通報シ若シ死體ノ引受ヲ願フモノハ死亡ノ日ヨリ二日臺灣ニ在リテ死亡セシ者ノ遺骨以内ニ死者所屬ノ部隊及校團等ニ願出ツヘキ旨ヲ告ケ其期日內ニ願出サルトキハ陸軍埋葬地ニ葬ルヘシ

死體ハ死亡ノ時ヨリ二日以内ニ埋葬スヘカラス但傳染病等ニ罹リ此期限ヲ待ツヘカラサルモノ又ハ戰時事變ノ際若クハ親族遠隔ノ地ニ在ルモノハ二十四時間ノ後埋葬スルコトヲ得

第十九條 死體ノ引受ヲ願フモノハ前條ノ期日內ニ通報ヲ受ケタル部隊校團等ニ願書ヲ出スヘシ但傳染病ニ罹リ死亡シタルモノニ在テハ死體引受ノ願書ニ其埋葬等ハ傳染病豫防法ニ據ルヘキ旨ヲ記入スヘシ

死體ヲ引渡ストキハ部隊長又ハ校團長ハ軍醫ノ死亡證書ニ基キ書式ニ據リ埋葬證書ヲ附與スヘシ

第二十條 將校准士官特務曹長ヲ除ク營外居住ノ下士兵卒ハ本人ノ遺言又ハ親族ヨリ請願スルモノハ陸軍埋葬地ヲ貸與スルヲ得但第七條乃至第十二條及第十六條ヲ適用ス

第二十一條 戰時戰地ニ於ケル死亡者ノ通報ハ別ニ定ムル所ニ據ル

第一表

將官同相當官	上長官	士官	准士官	下士官	下士兵卒
縱 二間半 橫 一間半	同 二間半 同 一間半	同 二間 同 一間	同 二間 同 一間半	同 二間 同 一間半	同 二間 同 一間
三坪七合五勺	二坪五合	二坪	一坪五合	一坪	一坪

第二表

將官同相當官	上長官	士官	准士官	下士官	士兵卒
高 五尺同四尺五寸同	四尺同	三尺同二尺五寸同	二尺	一尺同	九寸同
方 一尺同	九寸同	八寸同	七寸同	六寸同	五寸

(埋葬證書式)

埋葬證書	
族籍	姓名 年 齡
病名	死亡年月日午時
年月日	部隊長 姓名 名印

●陸達第八號 (明治二十六年二月十四日)

陸軍常備團隊配備表別表ノ通改正セラレ

(別表)

(第三十六年十一月達
第九十五號參看)

陸軍常備團隊配備表

近衛		師團		
		在部司師 地所令團		
	第二近衛	第一近衛	團旅	步兵
	東京		在部司旅 地所令團	
	第四近衛	第三近衛	隊聯	騎兵
			團旅	野戰砲兵
			在部司旅 地所令團	
近衛			隊聯	工兵
	第一東京		團旅	兵輜重
			在部司旅 地所令團	
	第五近衛	第四近衛	隊聯	要塞砲兵
	第三近衛		隊大	
	第二近衛		隊大	
			稱名	鐵道
			隊(大)聯	警備隊
	第一東京		隊道鐵	
			在部司令	
			地所令	
			隊兵步	
	近衛東京		隊樂軍	
東京			地名衛成	諸隊

陸軍常備團隊配備表

下

陸軍常備團隊配備表

第 六		第 七		第 八			第 九		第 十	
十四米		旭川		弘前			金澤		敦賀	
第十四		第十		第四			第六		第十	
第八		旭川		弘前			金澤		敦賀	
第十五		第十七		第十一			第七		第九	
第十六		第十八		第十二			第八		第十	
第十七		第十九		第十三			第九		第十一	
第十八		第二十		第十四			第十		第十二	
第十九		第二十一		第十五			第十一		第十三	
第二十		第二十二		第十六			第十二		第十四	
第二十一		第二十三		第十七			第十三		第十五	
第二十二		第二十四		第十八			第十四		第十六	
第二十三		第二十五		第十九			第十五		第十七	
第二十四		第二十六		第二十			第十六		第十八	
第二十五		第二十七		第二十一			第十七		第十九	
第二十六		第二十八		第二十二			第十八		第二十	
第二十七		第二十九		第二十三			第十九		第二十一	
第二十八		第三十		第二十四			第二十		第二十二	
第二十九		第三十一		第二十五			第二十一		第二十三	
第三十		第三十二		第二十六			第二十二		第二十四	
第三十一		第三十三		第二十七			第二十三		第二十五	
第三十二		第三十四		第二十八			第二十四		第二十六	
第三十三		第三十五		第二十九			第二十五		第二十七	
第三十四		第三十六		第三十			第二十六		第二十八	
第三十五		第三十七		第三十一			第二十七		第二十九	
第三十六		第三十八		第三十二			第二十八		第三十	
第三十七		第三十九		第三十三			第二十九		第三十一	
第三十八		第四十		第三十四			第三十		第三十二	
第三十九		第四十一		第三十五			第三十一		第三十三	
第四十		第四十二		第三十六			第三十二		第三十四	
第四十一		第四十三		第三十七			第三十三		第三十五	
第四十二		第四十四		第三十八			第三十四		第三十六	
第四十三		第四十五		第三十九			第三十五		第三十七	
第四十四		第四十六		第四十			第三十六		第三十八	
第四十五		第四十七		第四十一			第三十七		第三十九	
第四十六		第四十八		第四十二			第三十八		第四十	
第四十七		第四十九		第四十三			第三十九		第四十一	
第四十八		第五十		第四十四			第四十		第四十二	
第四十九		第五十一		第四十五			第四十一		第四十三	
第五十		第五十二		第四十六			第四十二		第四十四	
第五十一		第五十三		第四十七			第四十三		第四十五	
第五十二		第五十四		第四十八			第四十四		第四十六	
第五十三		第五十五		第四十九			第四十五		第四十七	
第五十四		第五十六		第五十			第四十六		第四十八	
第五十五		第五十七		第五十一			第四十七		第四十九	
第五十六		第五十八		第五十二			第四十八		第五十	
第五十七		第五十九		第五十三			第四十九		第五十一	
第五十八		第六十		第五十四			第五十		第五十二	
第五十九		第六十一		第五十五			第五十一		第五十三	
第六十		第六十二		第五十六			第五十二		第五十四	
第六十一		第六十三		第五十七			第五十三		第五十五	
第六十二		第六十四		第五十八			第五十四		第五十六	
第六十三		第六十五		第五十九			第五十五		第五十七	
第六十四		第六十六		第六十			第五十六		第五十八	
第六十五		第六十七		第六十一			第五十七		第五十九	
第六十六		第六十八		第六十二			第五十八		第六十	
第六十七		第六十九		第六十三			第五十九		第六十一	
第六十八		第七十		第六十四			第六十		第六十二	
第六十九		第七十一		第六十五			第六十一		第六十三	
第七十		第七十二		第六十六			第六十二		第六十四	
第七十一		第七十三		第六十七			第六十三		第六十五	
第七十二		第七十四		第六十八			第六十四		第六十六	
第七十三		第七十五		第六十九			第六十五		第六十七	
第七十四		第七十六		第七十			第六十六		第六十八	
第七十五		第七十七		第七十一			第六十七		第六十九	
第七十六		第七十八		第七十二			第六十八		第七十	
第七十七		第七十九		第七十三			第六十九		第七十一	
第七十八		第八十		第七十四			第七十		七十二	
第七十九		第八十一		第七十五			第七十一		七十三	
第八十		第八十二		第七十六			七十二		七十四	
第八十一		第八十三		第七十七			七十三		七十五	
第八十二		第八十四		第七十八			七十四		七十六	
第八十三		第八十五		第七十九			七十五		七十七	
第八十四		第八十六		第八十			七十六		七十八	
第八十五		第八十七		第八十一			七十七		七十九	
第八十六		第八十八		第八十二			七十八		八十	
第八十七		第八十九		第八十三			七十九		八十一	
第八十八		第九十		第八十四			八十		八十二	
第八十九		第九十一		第八十五			八十一		八十三	
第九十		第九十二		第八十六			八十二		八十四	
第九十一		第九十三		第八十七			八十三		八十五	
第九十二		第九十四		第八十八			八十四		八十六	
第九十三		第九十五		第八十九			八十五		八十七	
第九十四		第九十六		第九十			八十六		八十八	
第九十五		第九十七		第九十一			八十七		八十九	
第九十六		第九十八		第九十二			八十八		九十	
第九十七		第九十九		第九十三			八十九		九十一	
第九十八		第一百		第九十四			九十		九十二	
第九十九		第一百零一		第九十五			九十一		九十三	
第一百		第一百零二		第九十六			九十二		九十四	
第一百零一		第一百零三		第九十七			九十三		九十五	
第一百零二		第一百零四		第九十八			九十四		九十六	
第一百零三		第一百零五		第九十九			九十五		九十七	
第一百零四		第一百零六		第一百			九十六		九十八	
第一百零五		第一百零七		第一百零一			九十七		九十九	
第一百零六		第一百零八		第一百零二			九十八		一百	
第一百零七		第一百零九		第一百零三			九十九		一百零一	
第一百零八		第一百一十		第一百零四			一百		一百零二	
第一百零九		第一百一十一		第一百零五			一百零一		一百零三	
第一百一十		第一百一十二		第一百零六			一百零二		一百零四	
第一百一十一		第一百一十三		第一百零七			一百零三		一百零五	
第一百一十二		第一百一十四		第一百零八			一百零四		一百零六	
第一百一十三		第一百一十五		第一百零九			一百零五		一百零七	
第一百一十四		第一百一十六		第一百十			一百零六		一百零八	
第一百一十五		第一百一十七		第一百十一			一百零七		一百零九	
第一百一十六		第一百一十八		第一百十二			一百零八		一百一十	
第一百一十七		第一百一十九		第一百十三			一百零九		一百一十一	
第一百一十八		第一百二十		第一百十四			一百一十		一百一十二	
第一百一十九		第一百二十一		第一百十五			一百一十一		一百一十三	
第一百二十		第一百二十三		第一百十六			一百一十二		一百一十四	
第一百二十一		第一百二十五		第一百十七			一百一十三		一百一十五	
第一百二十二		第一百二十七		第一百十八			一百一十四		一百一十六	
第一百二十三		第一百二十九		第一百十九			一百一十五		一百一十七	
第一百二十四		第一百三十		第一百二十			一百一十六		一百一十八	
第一百二十五		第一百三十一		第一百二十一			一百一十七		一百一十九	
第一百二十六		第一百三十三		第一百二十二			一百一十八		一百二十	
第一百二十七		第一百三十五		第一百二十三			一百一十九		一百二十一	
第一百二十八		第一百三十七		第一百二十四			一百二十		一百二十三	
第一百二十九		第一百三十九		第一百二十五			一百二十一		一百二十五	
第一百三十		第一百四十一		第一百二十六			一百二十二		一百二十六	
第一百三十一		第一百四十三		第一百二十七			一百二十三		一百二十七	
第一百三十二		第一百四十五		第一百二十八			一百二十四		一百二十八	
第一百三十三		第一百四十七		第一百二十九			一百二十五		一百二十九	
第一百三十四		第一百四十九		第一百三十			一百二十六		一百三十	
第一百三十五		第一百五十一		第一百三十一			一百二十七		一百三十一	
第一百三十六		第一百五十三		第一百三十二			一百二十八		一百三十二	
第一百三十七		第一百五十五		第一百三十三			一百二十九		一百三十三	
第一百三十八		第一百五十七		第一百三十四			一百三十		一百三十四	
第一百三十九		第一百五十九		第一百三十五			一百三十一		一百三十五	
第一百四十		第一百六十一		第一百三十六			一百三十二		一百三十六	
第一百四十一		第一百六十三		第一百三十七			一百三十三		一百三十七	
第一百四十二		第一百六十五		第一百三十八			一百三十四		一百三十八	
第一百四十三		第一百六十七		第一百三十九			一百三十五		一百三十九	
第一百四十四		第一百六十九		第一百四十			一百三十六		一百四十	
第一百四十五		第一百七十一		第一百四十一			一百三十七		一百四十一	
第一百四十六		第一百七十三		第一百四十二			一百三十八		一百四十二	
第一百四十七		第一百七十五		第一百四十三			一百三十九		一百四十三	
第一百四十八		第一百七十七		第一百四十四			一百四十		一百四十四	
第一百四十九		第一百七十九		第一百四十五			一百四十一		一百四十五	
第一百五十		第一百八十一		第一百四十六			一百四十二		一百四十六	
第一百五十一		第一百八十三		第一百四十七			一百四十三		一百四十七	
第一百五十二		第一百八十五		第一百四十八			一百四十四		一百四十八	
第一百五十三		第一百八十七		第一百四十九			一百四十五		一百四十九	
第一百五十四		第一百八十九		第一百五十			一百四十六		一百五十	
第一百五十五		第一百九十一		第一百五十一			一百四十七		一百五十一	
第一百五十六		第一百九十三		第一百五十二			一百四十八		一百五十二	
第一百五十七		第一百九十五		第一百五十三			一百四十九		一百五十三	
第一百五十八		第一百九十七		第一百五十四			一百五十		一百五十四	
第一百五十九		第一百九十九		第一百五十五			一百五十一		一百五十五	
第一百六十		第二百零一		第一百五十六			一百五十二		一百五十六	
第一百六十一		第二百零三		第一百五十七			一百五十三		一百五十七	
第一百六十二		第二百零五		第一百五十八			一百五十四		一百五十八	
第一百六十三		第二百零七		第一百五十九			一百五十五		一百五十九	
第一百六十四		第二百零九		第一百六十			一百五十六		一百六十	
第一百六十五		第二百一十一		第一百六十一			一百五十七		一百六十一	
第一百六十六		第二百一十三		第一百六十二			一百五十八		一百六十二	
第一百六十七		第二百一十五		第一百六十三			一百五十九		一百六十三	
第一百六十八		第二百一十七		第一百六十四			一百六十		一百六十四	
第一百六十九		第二百一十九		第一百六十五			一百六十一		一百六十五	
第一百七十		第二百二十一		第一百六十六			一百六十二		一百六十六	
第一百七十一		第二百二十三		第一百六十七			一百六十三		一百六十七	
第一百七十二		第二百二十五		第一百六十八			一百六十四		一百六十八	
第一百七十三		第二百二十七		第一百六十九			一百六十五		一百六十九	
第一百七十四		第二百二十九		第一百七十			一百六十六		一百七十	
第一百七十五		第二百三十一		第一百七十一			一百六十七		一百七十一	
第一百七十六		第二百三十三		第一百七十二			一百六十八		一百七十二	
第一百七十七		第二百三十五		第一百七十三			一百六十九		一百七十三	
第一百七十八		第二百三十七		第一百七十四			一百七十		一百七十四	
第一百七十九		第二百三十九		第一百七十五			一百七十一		一百七十五	
第一百八十		第二百四十一		第一百七十六			一百七十二		一百七十六	
第一百八十一		第二百四十三		第一百七十七			一百七十三		一百七十七	
第一百八十二		第二百四十五		第一百七十八			一百七十四		一百七十八	
第一百八十三		第二百四十七		第一百七十九			一百七十五		一百七十九	
第一百八十四		第二百四十九		第一百八十			一百七十六		一百八十	
第一百八十五		第二百五十一		第一百八十一			一百七十七		一百八十一	
第一百八十六		第二百五十三		第一百八十二			一百七十八		一百八十二	
第一百八十七		第二百五十五		第一百八十三			一百七十九		一百八十三	
第一百八十八		第二百五十七		第一百八十四			一百八十		一百八十四	
第一百八十九		第二百五十九		第一百八十五			一百八十一		一百八十五	
第一百九十		第二百六十一		第一百八十六			一百八十二		一百八十六	
第一百九十一		第二百六十三		第一百八十七			一百八十三		一百八十七	
第一百九十二		第二百六十五		第一百八十八			一百八十四		一百八十八	
第一百九十三		第二百六十七		第一百八十九			一百八十五		一百八十九	
第一百九十四		第二百六十九		第一百九十			一百八十六		一百九十	
第一百九十五		第二百七十一		第一百九十一			一百八十七		一百九十一	
第一百九十六		第二百七十三		第一百九十二			一百八十八		一百九十二	
第一百九十七		第二百七十五		第一百九十三			一百八十九		一百九十三	
第一百九十八		第二百七十七		第一百九十四			一百九十		一百九十四	
第一百九十九		第二百七十九		第一百九十五			一百九十一		一百九十五	
第二百		第二百八十一		第一百九十六			一百九十二		一百九十六	
第二百零一		第二百八十三		第一百九十七			一百九十三		一百九十七	
第二百零二		第二百八十五		第一百九十八			一百九十四		一百九十八	
第二百零三		第二百八十七		第一百九十九			一百九十五		一百九十九	
第二百零四		第二百八十九		第二百			一百九十六		二百	
第二百零五		第二百九十一		第二百零一			一百九十七			

●陸軍第二十八號 (明治三十一年三月二十六日)
 陸軍常備團隊配備表ニ示セル諸隊衛戍地名ハ一般ノ配備ニ基キ命名シタルモノナル
 ヲ以テ實際其所在地衛戍地名ト異ナルモノヲ左ニ示ス

部	隊	號	衛戍地名	所	在	地	名
騎兵	第一聯隊	第一	東京	東京府	在原郡	世田ヶ谷村	
近衛	野戰砲兵第一聯隊	第一	東京	同府	同郡	駒澤村	
近衛	工兵第一大隊	第一	東京	同府	北豐島郡	岩淵町大字元袋村	
近衛	輜重兵第一大隊	第一	東京	同府	荏原郡	目黒村	
鐵道	第三十三聯隊	第三十三	名古屋	同府	豐多摩郡	中野村	
步兵	第四聯隊	第四	大阪	愛知縣	東春日井郡	二城村大字守山	
步兵	第十九旅團司令部	第十九	伏見	大阪府	東成郡	清堀村	
步兵	第三十八聯隊	第三十八	伏見	京都府	紀伊郡	深草村	
步兵	第二十一旅團司令部	第二十一	濱田	島根縣	那賀郡	石見村	
步兵	第四十二聯隊	第四十二	山口	山口縣	吉敷郡	上宇野合村	
野戰	砲兵第六聯隊	第六	熊本	同縣	同郡	宮野村	
工兵	第六大聯隊	第六	熊本	熊本縣	飽託郡	大江村	

陸軍常備團隊衛戍地名

陸軍常備團隊衛戍地名

步兵 第四十五聯隊	鹿兒島	鹿兒島縣鹿兒島郡伊敷村
第八師團司令部	弘前	青森縣中津輕郡清水村
騎兵 第八聯隊	同縣同郡堀越村	
步兵 第三十五聯隊	金澤	石川縣石川郡野村字野田
野戰砲兵 第九聯隊	敦賀	福井縣敦賀郡粟野村
工兵 第九大隊	鯖江	同縣丹生郡立待村 今立郡明神村 大字糺野
步兵 第三十六聯隊	姫路	兵庫縣飾磨郡城北村
騎兵 第十聯隊	鳥取縣	岩美郡稻葉村
步兵 第四十聯隊	福知山	京都府天田郡會我井村
步兵 第二十旅團司令部	九龜	香川縣多度郡麻野村
工兵 第十聯隊	高知	同縣同郡善通寺村
步兵 第四十四聯隊	小倉	福岡縣企救郡東紫村大字北方
野戰砲兵 第十二聯隊	久留米	福岡縣三井郡國分村
工兵 第十二大隊	札幌	北海道札幌郡月寒村
步兵 第二十四旅團司令部	鳴門	兵庫縣三原郡福良町
獨立野戰砲兵 大隊	長崎	廣島縣安藝郡廣島市段原村
獨立野戰砲兵 中隊	函館	長崎縣西彼杵郡竹久保郷
由良要塞砲兵聯隊鳴門分屯隊	鶴舞	渡島國龜田郡龜田村
吳要塞砲兵聯隊	函館	京都府加佐郡餘內村
佐世保要塞砲兵聯隊長崎分屯隊	鶴舞	
函館要塞砲兵大隊		
鶴舞要塞砲兵大隊		

陸軍常備團隊衛戍地名

騎兵 第十一聯隊	同縣同郡善通寺村
野戰砲兵 第十一大隊	高知縣土佐郡朝倉村
步兵 第四十四聯隊	高知
步兵 第四十七聯隊	小倉
野戰砲兵 第十二聯隊	小倉
工兵 第十二大隊	小倉
步兵 第二十四旅團司令部	久留米
獨立野戰砲兵 大隊	札幌
獨立野戰砲兵 中隊	札幌
由良要塞砲兵聯隊鳴門分屯隊	鳴門
吳要塞砲兵聯隊	鳴門
佐世保要塞砲兵聯隊長崎分屯隊	長崎
函館要塞砲兵大隊	函館
鶴舞要塞砲兵大隊	鶴舞

●勅令第七十一號 (明治三十六年三月三十一日)

陸軍大學校條例

第一條 陸軍大學校ハ才幹アル少壯士官ヲ選拔シテ高等用兵ニ關スル學術ヲ修メシメ併テ軍事研究ニ須要ナル諸科ノ學識ヲ增進セシムル所トス

第二條 學生教育ノ實施ハ參謀總長ノ定ムル教育綱領ニ據ル

第三條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長

幹事

副官

軍醫

獸醫

副監督

兵學教官

陸軍大學校條例

馬術教官

教官

下士判任文官

第四條 校長幹事及專任ノ兵學教官ハ參謀官トス

第五條 校長ハ參謀總長ニ隸シテ校務ヲ總理シ幹事及諸教官ヲ統督シテ學生教育ノ責ニ任ス

第六條 幹事ハ校長ヲ補佐シ教育ノ實施及其ノ齊一ヲ規畫シ副官軍醫獸醫副監督ヲ督シ校務ヲ整理シ且學生ヲ監督ス

第七條 副官軍醫獸醫副監督ハ校長ノ命ニ從ヒ各事務ヲ擔任ス

第八條 兵學教官馬術教官及教官ハ校長ノ命ニ從ヒ學術ノ教授ニ任ス馬術教官ハ校廄一切ノ事ヲ統ヘ馬匹ノ調教ヲ掌ル

第九條 陸軍大學校學生候補者ハ各兵科憲兵科ヲ除クノ中少尉ニシテ二年以上入校當年七月一日調隊務ニ服シ戸山學校騎兵實施學校野戰及要塞砲兵射擊學校ニ派遣中ノ時日ハ隊務トシテ計算スルコトヲ得身體強健勤務精勵學才

ニ當ミ且操行高尚ニシテ將來大ニ發達ノ見込アルモノナルコトヲ要ス

第十條 聯隊長獨立隊ニ在リテハ其ノ隊長官衙學校ハ前條ノ資格アルモノヲ選抜シ等ニ在リテハ其ノ所屬長以下同シ學生候補名簿ヲ製シ順序ヲ經テ所管長官ニ進達シ所管長官ハ之ニ意見ヲ附シ毎年

一月盡日迄ニ參謀總長ニ進達ス

聯隊長ハ學生候補者選抜ニ關シテハ特ニ擔保ノ責ニ任ス

第十一條 學生候補者試驗課目並試驗開始ノ時日ハ參謀總長ノ移牒ニ由リ毎年十二月陸軍大臣之ヲ告達ス

第十二條 參謀總長ハ試驗委員ヲ設ケ校長ヲ委員長ト爲シ試驗ヲ行ハシム

試驗ハ筆記トシ分テ初審試驗及再審試驗トス

初審試驗ハ學生候補者ノ學力ヲ檢定スルモノニシテ再審試驗ハ初審試驗ニ合格シタル者ニ就キ學力ノ活用ヲ檢定スルモノトス

第十三條 學生候補者ニシテ初審試驗開始前大尉ニ進級シタル者ハ候補者タル資格ヲ失フモノトス

第十四條 試驗ハ師管内ニ在ル候補者ニ付テハ師團長混成旅團守備管區内ニ在ル候補者ニ付テハ混成旅團長在外守備隊ニ於ケル候補者ニ付テハ當該守備隊長ノ指定スル場所ニ於テ各地同時ニ之ヲ行フモノトス但シ教育總監所管ノ候補者ニ付テハ教育總監近衛師團ニ於ケル候補者ニ付テハ近衛師團長ノ指定スル場所ニ於テ之ヲ行フモノトス

第十五條 參謀總長ハ試驗委員長ヲシテ初審試驗ニ係ル試驗問題及受験者名簿ヲ毎年二月中ニ教育總監及關係團隊長ニ送付セシム

教育總監及團隊長ハ前條指定ノ場所ニ受験者ヲ集メ參謀長又ハ參謀參謀アラサルトキハ隊長ノ監視下ニ於テ試驗ヲ行フ

教育總監及團隊長ハ前項試驗ノ解答書類ヲ纏メ速ニ試驗委員長ニ送付スヘシ
試驗委員ハ前項ノ書類ニ由リ試驗ノ成績ヲ調査シ試驗委員長ハ順次名簿ヲ製シ之ヲ參謀總長ニ進達スヘシ

第十六條 參謀總長ハ前條ノ順次名簿ニ由リ合格者ヲ裁定シ前條ニ準シ再審試驗ヲ

行ハシム但シ試驗問題及受験者名簿ハ毎年六月中ニ之ヲ送付スルモノトス

第十七條 參謀總長ハ試驗書類及學生候補名簿ヲ參照シ入學者ヲ裁定シ之ヲ陸軍大臣ニ移シ陸軍大臣ハ之ニ入學ヲ命シ十一月盡日迄ニ陸軍大學校ニ届出セシム

第十八條 入學中學生ノ名籍ハ原所管ヲ離ルルコトナシト雖願屆其ノ他業務上ニ關シテハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第十九條 學生ノ修學期限ハ三箇年トシ其ノ各學年ノ學期ハ十二月ニ始マリ翌年十一月ニ終ル

第二十條 校長ハ學生入學ノ後ニ其ノ資格不適合ト認ムルコトアルトキハ參謀總長ニ具狀ス參謀總長ハ之ヲ查覈シ陸軍大臣ニ移シ退學ヲ命シ原所管ニ復歸セシム
疾病ノ爲ニ缺課多キモ尙成業ノ見込アルモノニ在リテハ校長ノ上申ニ由リ參謀總長ハ之ニ滯學ヲ命スルコトアルヘシ

第二十一條 毎年八月ヨリ十月ニ亘リ學生ヲ各兵種ノ部隊ニ派遣シ隊附勤務ヲ爲サシム隊附勤務ハ通常秋季演習ヲ以テ終リト爲ス但シ陸軍大學校ノ授業上必要ト認

ムルトキハ校長ハ期ニ先チ學生ヲ召還スルコトヲ得
 學生隊附勤務中ハ當該隊長ノ指揮命令ニ從フコト其ノ部下將校ニ異ルコトナシ又
 當該隊長ハ學生ニ對シ懲罰ヲ科スルノ權ヲ有ス
 第二十二條 學生隊附勤務ヲ終レハ當該隊長ハ其ノ成績ヲ校長ニ申報ス、
 第二十三條 教育上適當ノ時機ニ於テ要塞砲兵射擊砲臺軍艦其ノ他製造所等ヲ實視
 セシム
 第二十四條 校長ハ各學期ノ終リニ於テ幹事及兵學教官ヲ會シ學生ノ修學結果及伎
 倆ヲ審査シ第一第二學年學生ノ爲ニハ其ノ修學結果報告ヲ第三學年學生ノ爲ニハ
 伎倆證明書並成績順次名簿ヲ製シ參謀總長ニ呈ス
 第二十五條 學生ノ卒業者ニハ卒業證書及之ニ表彰スヘキ徽章ヲ附與シ原所管ニ復
 歸セシム但シ成績不良ノモノニハ單ニ修學證書ノミヲ附與ス
 第二十六條 修學ニ所要ノ圖書、器具及消耗品ハ貸與又ハ支給スルコトヲ得
 第二十七條 武官教官ハ校務ニ差支ナキ時期ニ於テ隊附勤務ヲ爲サシメ若ハ機動演
 習ニ參與セシムルコトアルヘシ
 第二十八條 校長ハ毎年學生ニ三週間以内ノ夏期休暇ヲ與フルコトヲ得

陸軍省令第四號 (明治三十七年一月二十八日)
 憲兵隊配置及憲兵分隊管區別表ノ通改正ス
 本令ハ明治三十七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
 (別表)

憲兵隊配置及憲兵分隊管區表

第	憲兵 本隊 位置	憲兵 分隊 位置	憲 兵 分 隊 管 區	憲兵分隊 分遣所
東京府 東京市 麴町區 大手町	東京府 東京市 麴町區 大手町	東京府 東京市 麴町區 大手町	東京府 東京市 麴町區 大手町	表若町 猿藤新宿 内藤新宿 高崎市
千葉縣 東葛飾郡 川市	千葉縣 東葛飾郡 川市	千葉縣 東葛飾郡 川市	東京府 南葛飾郡 水元村 新宿町 金町村 小岩村 奧戸村 瑞穂村 松江村 平井村 鹿本村 篠川村 船堀村 葛西村 西村 橫須賀分隊管區ニ屬スル區域ヲ除ク	二宮村 千代田村 佐倉町
川市	川市	川市	北葛飾郡	

憲兵隊配置及憲兵分隊管區表

憲兵隊配置及憲兵分隊管區表

第六		第五			
熊本市 熊本市 熊本市 千葉市 町		廣島縣 廣島市 基町			
鹿兒島	熊本市	吳市	山口縣	濱田郡	島根縣
下島市 山縣 鹿兒島	上林町 熊本市 熊本市	庄和 吳市 廣島縣	山口郡 吉敷郡 山口縣	濱田郡 那賀郡 島根縣	山口縣
沖宮 繩崎 縣	福岡縣	愛媛縣 岡山縣 廣島縣	山口縣	廣島縣	山口縣
(下關分隊管區ニ屬スル區域ヲ除ク)		久留米市 三井郡 三潞郡 八女郡 山門 久留米市	(廣島分隊及濱田分隊管區ニ屬スル區域ヲ除ク)	雙三郡 比婆郡	砂谷村 水内村 上水内村 友原村 三和村 四和村 御

第七		
北海道 石狩國 上川郡 鷹栖村		
函館	旭	札幌
同館區 同館區 同館區	石狩國 上川郡 鷹栖村	北海道 札幌區 大通區 二丁目
北海道	北海道	北海道
函館區 龜田郡 上磯郡 茅部郡 松前郡 奧尻郡 歌棄郡	河野郡 上川郡 白糠郡 厚岸郡 釧路郡 中川郡 阿寒郡 十勝郡 釧路郡	札幌區 札幌市 石狩郡 厚田郡 濱益郡 空知郡 (富良野村) 樺戶郡 夕張郡 (石狩國) 小樽區 小樽郡 美濃郡 高島郡 忍路郡 余市郡 古平郡 美濃郡 積丹郡 古宇郡 岩内郡 (後志國) 千歲郡 勇拂郡 白老郡 幌別 流部 室蘭郡 有珠郡 虻田郡 (膽振國) 幌別 浦河郡 三石郡 浦河郡
	旭川町	

憲兵隊配置及憲兵分隊管區表

憲兵隊配置及憲兵分隊管區表

第	九 第	八 第			
	西金石 町澤川 市縣	富弘青 田前森 町市縣			
路 姫	賀敦 澤金	形山	田秋	湊大	前 弘
前光姫兵 町源路庫 寺市縣	栗敦福西金石 野賀井町澤川 村郡縣市縣	十日山山 日形形 町市縣	大秋秋 町田田 市市縣	大下同 湊北郡縣	富弘青 田前森 町市縣
兵 岡 庫 山 縣 縣	岐福 富石 阜井 山川 縣縣	山 形 縣	秋 田 縣	青 森 縣	宮岩秋青 城手田森 縣縣縣縣
揖姫岡 保路山 郡市 郡市	(舞鶴分隊管區ニ屬スル區域ヲ除ク)		(弘前分隊管區ニ屬スル區域ヲ除ク)	下北郡	栗原郡 登米郡 本吉郡
赤加西 穂西 郡郡	御津郡 赤磐郡 和氣郡 邑久郡				北秋田郡 山本郡 鹿角郡
佐印南 用南 郡郡	飾磨郡 神崎郡				
宍粟郡					
	鯖江市				青森市

三六

一 十 第	十			
寺郡仲香 町善多川 通度縣	前光姫兵 町源路庫 寺市縣			
知 高	山 松	寺通善	鶴舞	取鳥
本高知 町知市 縣	町西松愛 堀堀山媛 端市縣	寺郡仲香 町善多川 通度縣	餘加京 部佐都 町郡府	東鳥鳥 町取取 市市縣
高知縣	愛媛縣 (吳分隊管區ニ屬スル區域ヲ除ク)	德島縣 (由良分隊管區ニ屬スル區域ヲ除ク)	兵福京 庫井都 縣縣府	岡鳥 山取 縣縣
			加三(伏見分隊管區ニ屬スル區域ヲ除ク) 東方郡 遠敷郡 大飯郡 養父郡 多可郡 氷上郡 多紀郡 出石郡	西川神 成邊戸 郡郡市 三有明 島馬石 郡郡郡 豊美 能囊 郡郡 加古郡 武庫郡
		丸龜市	福知山町	

憲兵隊配置及憲兵分隊管區表

三七

第十				
福岡縣 小倉市 舊城内				
小倉	下關	長崎	佐世保	對馬
福岡縣 小倉市 舊城内	山口縣 下關市 唐戸町	長崎縣 長崎市 西濱町	同縣 佐世保市 島瀬	同縣 下縣郡 雞知村
福岡縣 大分縣 佐賀縣	山口縣 大分縣 福岡縣 宮崎縣	長崎縣 佐賀縣	同縣 長崎縣 佐賀縣	長崎縣 上縣郡 下縣郡 壹岐郡
(熊本分隊及下關分隊管區ニ屬スル區域ヲ除ク) 玖珠郡 日田郡 下毛郡 宇佐郡 (佐世保分隊及長崎分隊管區ニ屬スル區域ヲ除ク)	下關市 豊浦郡 (小倉分隊管區ニ屬スル區域ヲ除ク) 門司市 企救郡(東郷村松ヶ江村柳ヶ浦村) 東臼杵郡 西臼杵郡	(佐世保分隊及對馬分隊管區ニ屬スル區域ヲ除ク) 藤津郡 杵島郡	佐世保市 北松浦郡 東彼杵郡 (日宇村早岐村折尾西彼杵郡) 瀬村上波佐見村下波佐見村川柳 村廣田村宮村江上村崎針尾村 (龜岳村瀬川村大串村面高村七釜村多以良村黒瀬村) 西松浦郡 東松浦郡	
福岡市	門司市	大村町		嚴原村 竹敷町

●勅令第九十九號 (明治三十三年五月十九日)

鎮守守條例

- 第一條 各軍港ニ鎮守府ヲ置ク
- 鎮守府ハ其ノ所在ノ地名ヲ冠稱ス
- 第二條 鎮守府ハ出師ノ準備、防禦ノ計畫、海軍區ノ警備並所轄諸部ノ事務ヲ監督スル所トス但シ要港部ノ所掌ニ屬スル警備區ノ警備ヲ除ク
- 第三條 鎮守府ニ司令長官ヲ置ク
- 司令長官ハ親補トス
- 第四條 司令長官ハ
天皇ニ直隸シ麾下ノ艦隊艦船部團隊ヲ統率シ所屬各部ヲ監督シ府務ヲ總理ス
司令長官ハ海軍大臣ノ命ヲ承ケ軍政ヲ掌ル
- 第五條 司令長官ハ麾下ノ軍紀風紀及教育訓練ヲ統監ス
- 第六條 司令長官ハ麾下ノ艦隊、艇隊若ハ艦船ヲ所管海軍區及鄰區内ニ派遣シ又軍

三十一年六月
令第一號七
十三號參
看

鎮守府條例

隊ヲ所管海軍區内ニ派遣スルコトヲ得

第七條 司令長官ハ其ノ軍港内ニ在ル他ノ所管ノ艦船ヲ指揮スルコトヲ得但シ他ノ司令長官司令官現在スルトキ其ノ麾下艦船ニ對シテハ此ノ限ニアラス

第八條 司令長官ハ地方長官ヨリ地方ノ安寧ヲ維持スル爲兵力ヲ請求スルトキ事急ナレハ直ニ之ニ應スルコトヲ得其ノ事地方長官ノ請求ヲ待ツノ違無キトキハ便宜

兵力ヲ用フルコトヲ得此ノ場合ニ當リテハ事後速ニ海軍大臣ニ報告スヘシ
第九條 司令長官ハ疾病其ノ他緊急ノ場合ニ方リ一時麾下ノ兵員ヲ移轉セシムルヲ必要トスルトキハ之ヲ處分シテ後海軍大臣ニ報告スヘシ

第十條 司令長官ハ麾下ノ雜役船舟ニ乗員ヲ要スルトキハ麾下人員ニ臨時乗組ヲ命スルコトヲ得

第十一條 司令長官ハ麾下ノ候補生及准士官ヲ麾下艦船團其ノ他各部ニ轉乘若ハ轉勤セシムルコトヲ得

第十二條 司令長官ハ麾下ノ下士卒ヲ所屬艦船團其ノ他各部ニ配付ス

三十三年
六月勅令
第二百八
十四號參
看

第十三條 司令長官ハ要塞地帶法及軍港要港規則ノ施行ニ關シテハ所在憲兵ヲ指揮スルコトヲ得

第十四條 司令長官ハ麾下ノ職員缺員中若ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ他ノ麾下職員ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第十五條 司令長官缺員中若ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ所在麾下首席將校其ノ職務ヲ代理ス

第十六條 鎮守府ノ幕僚トシテ左ノ職員ヲ置ク

參謀長

參謀

副官

機關長

軍醫長

主計長

前項ノ外機關官及主理ヲ置ク

鎮守府條例